

開港5都市景観 まちづくり会議 2009 横浜大会

150年の贈りもの
～新たな旅立ちへ～

2009年9月11日(Fri)～13日(Sun)

開催記録



開港5都市景観まちづくり会議
横浜大会実行委員会

目 次

01 はじめに

02 大会プログラム

03 【1日目】

04 全体会議Ⅰ

08 海から見た横浜の見学

10 基調講演

13 ウェルカムパーティ

15 オプション企画「ぶらっとハマナイト」

16 【2日目】

17 分科会 1

25 分科会 2

40 分科会 3

49 【3日目】

50 全体会議Ⅱ

分科会報告／大会総括／代表者会議報告／大会宣言／開催都市引継ぎ／閉会



1 はじめに

平成 21 年 9 月 11 日から 13 日にかけて「開港 5 都市景観まちづくり会議 2009 横浜大会」を開催し、このたび、記録集をまとめました。はじめに、この大会の企画から実施まで、たいへん多くの方々にご協力いただきましたことに、感謝とお礼を申し上げます。

今回の横浜大会は、横浜開港 150 周年という節目の年にあたり、開港 5 都市景観まちづくり会議も 3 巡目の最後を締めくくる大会ということもあって、実行委員会では特別な思いを持って、大会の企画・運営にあたりました。

各都市の交流、活動の紹介といったことから始まった会ですが、今回は、街の課題やまちづくりの方向などの議論もしました。また、「ぶらっとハマナイト」のように、この会から新たな活動を生み出すことにも挑戦しました。

函館、新潟、神戸、長崎の 4 都市から 78 名もの皆様にご参加いただき、感謝申し上げますとともに、4 都市のみなさまには貴重なご意見を多数いただき、これからの横浜のまちづくり並びに各団体の活動に生かしていきたいと思いをします。

平成 5 年に始まった開港 5 都市景観まちづくり会議は、今回で 15 回目を数え、すでに歴史あるイベントとなりました。この会議を通じて 5 都市の交流が進み、絆が強まりました。来年度は神戸市で 4 巡目の大会がスタートすることも決定しました。今後とも、互いに協力し合い、競い合う良い関係が続いていくことを願っています。

平成 22 年 2 月

開港 5 都市景観まちづくり会議横浜大会実行委員会

会長 六川 勝仁

2 大会プログラム

一般参加を受け付けました。

9月11日（金）			
全体会議Ⅰ （情文ホール）	13：00～13：30	開会式／各都市活動紹介/オリエンテーション	
見学会	14：00～16：00	海から見た横浜の見学 〈海事広報艇「はまどり」〉	
記念講演 （情文ホール）	16：00～	基調講演受付	
	16：30～17：30	第2部 基調講演「開港場横浜の華と陰」 講師：作家 山崎洋子（詳細は表面参照）	
	17：30～18：30	移動・休憩（ホテルチェックイン等）	
ウエルカム パーティー	18：30～20：30	ホテルニューグランド ペリー来航の間	
	オプション企画「ぶらっとハマナイト」（野毛・吉田町・関内）		
9月12日（土）			
分科会 9：30～16：30	分科会① 港の資産を生かして新たな魅力づくり AM まち歩き マリンタワー 大栈橋 象の鼻 日本大通り 等 昼食（Café de la PRESSE） PM 講演・ディスカッション（横浜開港資料館講堂） コーディネーター 西川武臣（開港資料館主任調査研究員）	分科会② 文化の香り豊かなモダンな街～個性を生かして街を元気にしよう～ AM まち歩き 象の鼻、BankartNYK、黄金町、吉田町、イセザキ、馬車道 等 ※2階建て観光バス利用 昼食（相生） PM ディスカッション（北仲 BRICK） コーディネーター 鈴木伸治（横浜市立大学准教授）	分科会③ ハイカラ文化と市民の活動 AM まち歩き 山手地区散策 山手イギリス館 フェリス資料館 等 講演：江刺昭子 昼食（重慶飯店） PM ディスカッション（元町SS会事務所） コーディネーター 菅孝能（山手総合計画研究所所長）
	代表者会議		
	各都市代表者会議 17：00～18：00（BankART NYK 内 カフェリブ）		
	オプション企画「ぶらっとハマナイト」（野毛・吉田町・関内）		
9月13日（日）			
全体会議Ⅱ ヨコハマNEWS ハーバー	10：00～12：00	分科会報告	
		閉会式／開催都市引継／大会宣言等	
	オプション企画「開国博Y150」		

第1日目

2009年9月11日(金)

全体会議 /

海から見た横浜の見学

基調講演

ウェルカムパーティ

全体会議 I

日 時 2009年9月11日（金） 13時～13時30分

会 場 横浜情報文化センター 情文ホール

司 会 島田 喜隆（横浜の観光を考える会）

主催者挨拶 開港5都市景観まちづくり会議横浜大会実行委員会
会長 六川 勝仁（馬車道商店街協同組合）

開催市挨拶 横浜市都市整備局長 櫻井 文男

各都市活動報告

函館市	函館の歴史的風土を守る会	落合	治彦
新潟市	協同組合新潟あきんど塾	本間	龍夫
神戸市	神戸市景観形成市民団体連絡協議会	曹	英生
長崎市	三ツ山犬継地区景観まちづくり協議会	岡村	則満



主催者挨拶

開港5都市景観まちづくり会議横浜大会

実行委員会 会長 六川勝仁

開港4都市の皆様、ようこそ横浜にお越し下さいました。今年は函館、長崎、横浜が開港150年の節目を迎えています。横浜ではY150など開港150周年を記念したイベントが行われています。平成5年に神戸からスタートした開港5都市景観まちづくり会議も、今回の横浜で15回目を迎えることができました。その間、開港の場となった共通の歴史を持つ各都市間の市民交流や情報交流など活発な運営を行うことができました。

今回の会議には4都市から80名以上の皆様にご参加頂いています。横浜も平成16年の前回の大会以降、まちづくりを担う市民の活動がますます活発になっています。今回は横浜のまちを見ていただくとともに、まちづくりの課題について考え、これからのまちづくりに少しでも役立てることができれば幸いです。3日間の短い期間ですが、皆様のご協力を得ながら、実りのある有意義な横浜大会にしていきたいと思ひます。



開催市挨拶

横浜市都市整備局

局長 櫻井 文男

皆様、ようこそ横浜にお越し下さいました。横浜では、開港都市として培ってきた歴史や文化を都市の資産と考え、市民の皆様のご協力を頂きながら魅力のあるまちづくりを行っています。

5年前にも横浜で大会がありましたが、その時には歴史的な建造物を活かして芸術活動の場をつくる実践的な取組みをご覧頂いたと思います。現在は、多くの方々にご参加頂いている「創造都市」という取り組みに発展してきています。

このように外からの活動を加えることも大切ですが、それに地元の方々が刺激を受けて、新しい活動を生み出すことが大切だと思います。ぜひ横浜のまちづくりを実感し、楽しんで頂きながら、さらには横浜に対し様々なご意見を頂けたら幸いです。

各都市活動報告



函館市

函館の歴史的風土を守る会

落合 治彦

昨年の9月に開催された函館大会には多くの方がご参加頂きました。この場をお借りし、心から御礼を申し上げます。函館大会では、開港都市の皆様と美しい景観づくりに努める宣言を致しました。今後も一層交流を深め、成果を分かち合って前進したい所存です。

十分に横浜を体感して、函館に多くのみやげを持って帰りたいと思います。



神戸市

神戸市景観形成市民団体連絡協議会

曹 英生

今年神戸では、ディステイネーションキャンペーンが4月から行われました。しかし、その時期は新型インフルエンザが流行し、商売に大きく影響を与えました。そこで我々は、それに屈することなく「禍転じて福となる」という催しを行いました。国、県、市からも援助を頂き、この期間、スイング・オブ・ライツというイベントを行いました。これはポートタワーから出るレーザー光線が、ジャズの中で港に映し出されるものです。本来、15万人の予定が25万人の方々が訪れ、前年の来客を上回る結果となりました。

我々12団体ありますが、それぞれが協力して活動を行っています。神戸はコンパクトな街ですが、たくさんの特徴のある街です。来年はおそらく神戸での開催となりそうですが、そのときは景観だけでなく、食やファッションなども楽しんで頂きたいと思います。



新潟市

協同組合新潟あきんど塾

本間 龍夫

新潟市は政令市になり、人口81万を数える都市になりました。ですが、新潟には田園や農村などの原風景がいまだ多く残っています。今年は県外、地元の方々にその自然の良さ、歴史を知って頂くイベントを行っています。このイベントでは、アーティストの方々に地域を拝見して頂きながら、その風景をアートとして表現しています。

これからの季節、ますます景色が映える時期ですので、その際はぜひ新潟にお越し下さい。



長崎市

三ツ山犬継地区景観まちづくり協議会

岡村 則満

我々まちづくりの協議会が8つほどありますが、それぞれの会がもう少し連絡を密にしようということで、連絡協議会を立ち上げました。長崎は鎖国時代からの歴史があり、今年の開港150周年に関しては、他の都市よりも若干盛り上がりが少ないように感じています。ですが、今年は市政120周年ということで、行政とまちづくり団体が一緒になって活動を行っています。只今、NHKで天地人がやっていますが、来年は長崎にゆかりの深い坂本龍馬の大河ドラマが放送されるそうです。そこで現在、来年に向けて官民が一体となってイベントを考案しています。

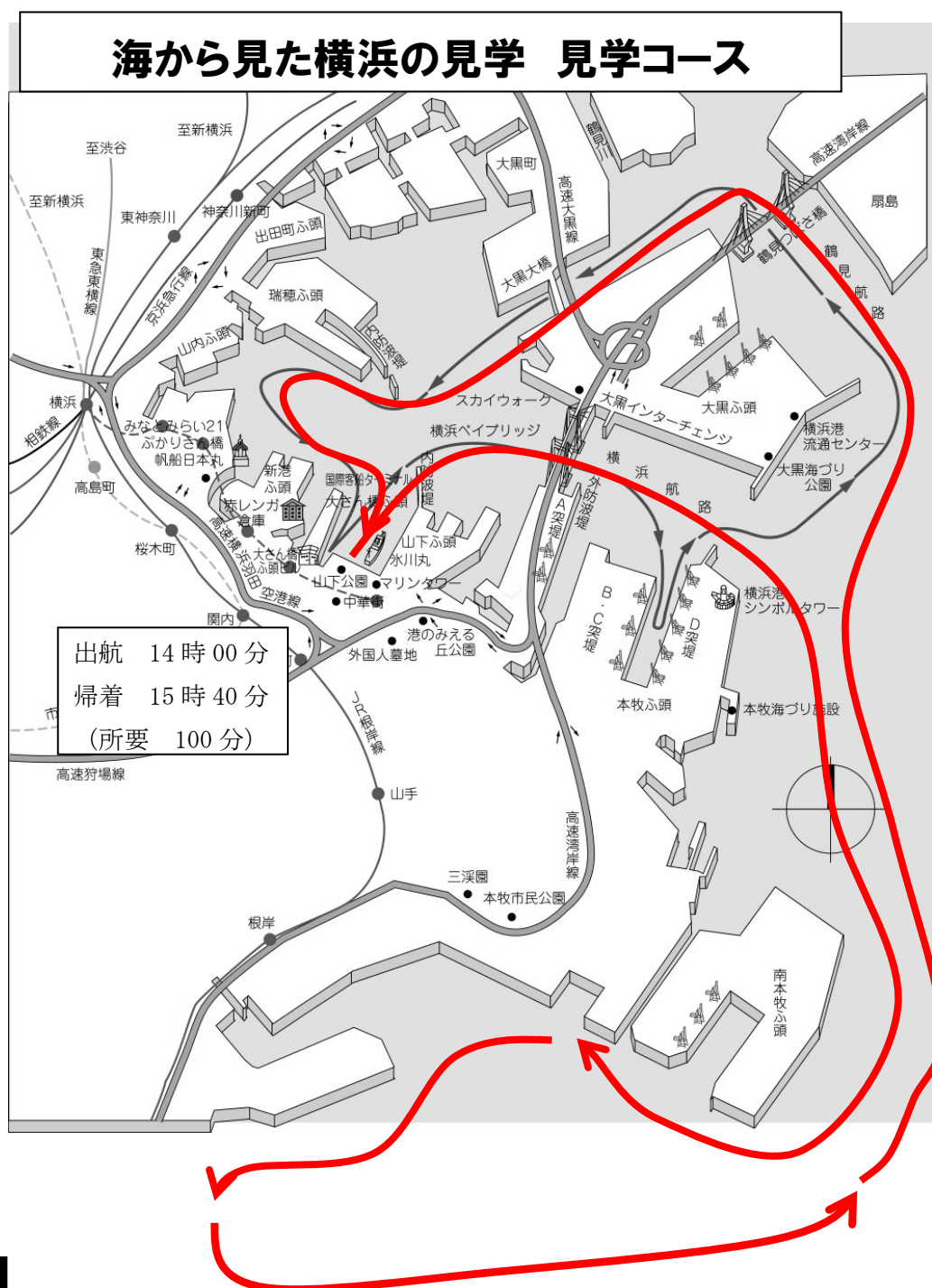
また、長崎ではキリスト教関連施設の世界遺産の指定をもらうために、景観条例の整備や地域を盛り上げる様々な活動を行っています。それぞれの地域では、独自に居留地祭りやクリスマスイベントなども行っています。私たち犬継地区では、自然景観を生かしたまちづくりを60年前から立ち上げて活動を行っています。まちづくりは一朝一夕にはいきませんが、自然を愛するイベントなどを通じて地域の交流を深めています。

海から見た横浜の見学

1日目全体会議Ⅰの企画として、横浜市港湾局所有の海事広報艇「はまどり」に乗船し、海上から横浜のまちなみを見学していただきました。

150年前、開国に際し、ペリーが上陸したときも、この海から横浜へやってきました。参加者の皆様には、150年前に思いを馳せ、ペリーの気分を味わっていただければ幸いです。

企画団体 横浜の観光を考える会
協力 NPO法人横浜シティガイド協会、横浜市港湾局



見学の様子



これが「はまどり」です。
お天気もよく、見学には最適でした。



船内では、シティガイド協会による
周辺の案内が行われました。



通常の見学コースよりも長い、今回だけの特別コースで運航していただきました。
NPO 法人横浜シティガイド協会の椎橋四郎会長に解説していただきました。
開港当時のエピソードに加え、最近どんどん変化している新しい横浜の様子も見学できました。

基調講演「開港場横浜の華と陰」

講師：作家 山崎 洋子氏

講師プロフィール



京都府宮津市生れ 横浜市在住

コピーライター、児童読物作家、脚本家を経て小説家に。

1986年 「花園の迷宮」（講談社）で第32回江戸川乱歩賞を受賞。

小説、エッセイ、ノンフィクションなど多数。

最新刊 「赤い崖の女」（講談社）

「人魚を食べた女」（講談社）

「横浜タイムトリップ・ガイド」

（講談社・共著）

横浜市開港150周年市民参加プラットフォーム推進委員会委員長

【講演要旨】

本日の講演は、横浜の開港に至る歴史、そして、私の関心のある開港に功績のあった人々「中国人」「遊郭の女性」「お茶場の女性」についてお話しします。

まず、横浜開港の歴史ですが、なぜ当時何もなかった横浜が開港の地に選ばれたのか。当時のアメリカは捕鯨大国であり、アメリカはアジアのその拠点となる捕鯨基地が必要でした。アジアに植民地のないアメリカは、日本に目をつけました。

当時、日本は長崎を除き鎖国状態にあり、そこに1853年、ペリーがやってきました。当時の幕府は江戸に外国船が入ってくることを恐れ、交渉の場を別の場所にしようとしていました。そこで、横浜がその場所選ばれます。

開港5都市景観まちづくり会議2009 横浜大会
150年の贈りもの～新たな旅立ちへ～
主催：開港5都市景観まちづくり会議横浜大会実行委員会



横浜が選ばれた理由として、横浜の海は水深が深く、大きな黒船を止めることができたこと、また、アメリカ側にとっては船を止めるだけでなく、そこから大砲を打つと沖まで届く距離にあること、一方、幕府にとっては、当時の横浜村には何もなく、仮に犠牲になるのはこの場所のみで済むと考えたからです。



1854年、日米和親条約が横浜で締結され、その後、ハリスが下田に来日し、日米修好通商条約を結びます。日本はアメリカ以外にイギリス、フランスなどとの貿易をするようになります。横浜には多くの外国人が入港し、徐々に外国人の家が建ち始めます。

その結果、横浜は自然と開港場となっていったのです。当時、横浜には川がありましたが、開港を機に町の警備をしやすくするため、川が通され、各要所に関門が設けられました。それが現在の関内の由来ともなっています。

そこでまず、横浜開港に功績のあった人物として、中国人の話をしていきます。欧米人の使用人として、中国人がこの頃から多く日本に入ってきます。当時、欧米人と日本人は言葉が通じなかったため、中国人は両者の仲介、通訳としてその役割を果たします。また、欧米の職業の技術も中国人が日本人に教えたとされます。

開港後、外国人居留地には中国人の家がたくさん建てられ、一つのコミュニティが形成されていきます。そして、日清、日中戦争を経て、横浜の中華街は世界一のチャイナタウンとして成長するのです。

次に、遊郭の女性についての話です。開国と同時に横浜には外国人向けの遊郭が造られます。この頃、横浜に造られたのが港崎^{みよざき}遊郭です。その中で一番大きかったのが「岩^{がん}亀^き楼^{ろう}」です。外国人相手の人々は「羅紗^{らしゃ}麵^{めん}」と呼ばれていました。

ですが、当時は外国人への不信感から成り手の女性はほとんどいませんでした。港崎遊郭は、慶應二年の大火によって全焼し、多くのお女郎さんが亡くなります。その後は各地を転々としませんが、最終的に赤線廃止により、横浜の遊郭はなくなります。

では、この時代に生きたお女郎さんたちが果たした役割とは何か。一つに、外国人の男性をなだめたこと、二つに、多くの外貨、お金をもたらしたことです。歴史に名を残さない人々でしたが、そうした開港初期の時代に大きな役割を果たしたと思います。

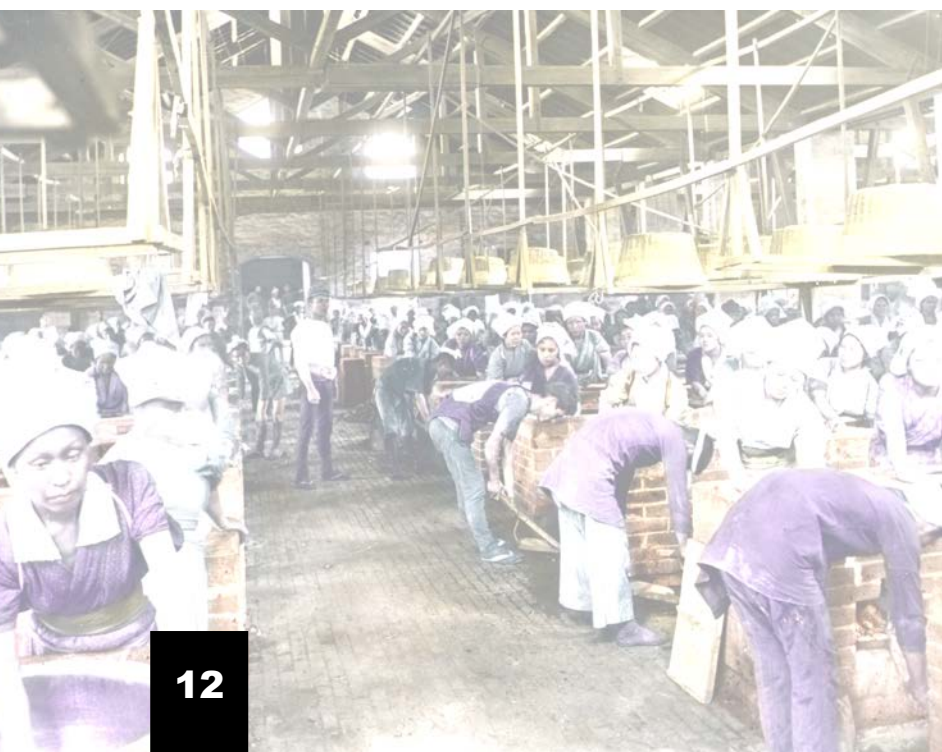


最後に、お茶場の女性についての話です。

当時、横浜の輸出品として生糸とお茶がありました。生糸は有名ですが、お茶が横浜の当時の輸出品であったことはほとんど記録に残っていません。当時、横浜にはお茶を煎る工場が多く造られ、それらの工場には何千人という女性が働いていました。

女性たちが働く工場を選ぶにあたっては、支払われる日当の額よりも、工場の親方の態度や扱いが良いところを選んでいたそうです。つまり、それだけ過酷な労働条件下に置かれていたのです。ですが、女性たちはそれでも懸命に働き、横浜のお茶産業の下支えとなったのです。

横浜開港の歴史、そして、開港後の横浜を影で支えた人々を紹介してきました。横浜には、多くの名の知れた歴史人がいますが、開港から横浜の発展を支えた多くの女性たちがいたことを、本日の講演で知って頂けたのではないかと思います。



ウェルカムパーティ

日時：2009年9月11日（金）18時30分～20時30分

会場：ホテルニューグランド ペリー来航の間

司会：宮川眞壽美（関内を愛する会）



開催自治体を代表して、林文子横浜市長よりごあいさつをいただきました。



横浜を中心に活躍しているジャズシンガー、キャロル山崎さん



4都市の皆様からいただいたお土産は大好評！



久しぶりに顔を合わせた者どうし、お互いのまちづくり活動をたたえあい、会場は大変な熱気につつまれました。

オプション企画 ぶらっとハマナイト

昨年の函館・バル街に刺激を受け、ここ横浜でも夜の街を楽しんでいただくための企画を実施！ 野毛・吉田町・関内の飲食店を、共通のチケットで飲み・食べ歩き、楽しんでいただく企画です。

9月11日と12日の2日間開催し、約70名が参加し、昼間とはまた違った横浜の魅力を味わっていただきました。



関内、野毛、吉田町の飲食店を案内したパンフレット。
野毛地区の飲食店 61 店、吉田町の飲食店 30 店、
関内地区の飲食店 10 店が参加。

吉田町の各バーは、5 都市をイメージしたオリジナル
カクテルをこの日のためにつくりました。

老舗の食事が楽しめる関内地区、下町的雰囲気飲食
が楽しめる野毛地区、カジュアルなバーの街・吉田町。
それぞれの個性が光る夜のヨコハマを堪能しまし
た！

企画団体：関内を愛する会、野毛街づくり会、吉田町名店街会、馬車道商店街、
イセザキ 1・2 丁目商店街

協力：野毛地区振興事業協同組合、野毛飲食業協同組合、加賀料理飲食喫茶業
組合

第2日目

2009年9月12日(土)

分科会1

港の資産を生かして新たな魅力づくり

分科会2

文化の香り豊かなモダンな街
～個性を生かして街を元気にしよう～

分科会3

ハイカラ文化と市民の活動

代表者会議

分科会1 港の資産を生かして新たな魅力づくり

参加者：45名（函館市2名、新潟市5名、神戸市8名、長崎市4名、横浜市26名）

企画団体：（社）神奈川地域活性化推進協会、日本大通り活性化委員会、
山下公園通り会

協力：横浜開港資料館、横浜マリンタワー、アマノスタジオ、
ホテルニューグランド、NPO法人横浜シティガイド協会

【午前 見学会】

コース：マリンタワー→ホテルニューグランド→氷川丸・山下公園→開港広場・大さん橋→象の鼻パーク→日本大通り

9時30分 マリンタワー集合・見学



ホテルニューグランド 本館 見学



普段の開館時間より
前に特別に見学させて
いただきました。



氷川丸・山下公園を見学





開港広場・大さん橋



象の鼻パーク



日本大通り（Café de la PRESSE にて昼食）



【午後 講演及びディスカッション】

1. 講演



横浜開港資料館
主任調査研究員
西川武臣 氏

横浜開港資料館は、横浜市が昭和56年に設立しました。ここでは、江戸時代の終わりにから関東大震災までの歴史に関する古記録を集め、その展示をしたり、講演を開いたりしています。横浜は、国際都市としてこれまで歴史を歩んできました。古記録を含めて、古い建物や土木遺構が次の時代にどのように生かされていくのか、また生かしていけばよいのか、その点を中心に本日はお話しします。

横浜は昔から大火が多く、関東大震災の被害も受けました。また、第二次世界大戦時に横浜大空襲があり、横浜の市街地中心部はすべて燃えてしまいました。つまり、横浜には現在古いものが残っていないのです。その中で、古いものをどう生かしていくのかですが、その一番の良い例として、開港資料館の中庭に立っている木について話します。

1854年、ペリーが日本にやってきて、日米和親条約を結びました。ペリーがこの条約を結んだのが、この場所（開港資料館）にあたります。ここに当時の絵（配布資料）に描かれている木がありますが、それが、開港資料館の中庭の木です。ただ、当時の木は何回かの火災によって燃えてしまっています。

ペリーとの条約を結んだあとにハリスが日本にやってきて、日本と通商条約を結び、横浜で貿易が始まりました。この時は、長崎と函館も合わせて開港の場所として選ばれ、この3都市で貿易が始まりました。さらにそのあと新潟、神戸などが続くこととなります。1865年に横浜で大火があり、この木が燃えてしまいます。しかし、木の上の部分が残っていたため、そこから木は成長することができました。

その後、再び関東大震災の時に火事が起きてしまいます。そのときは木の上の部分ですべて焼け落ちてしまいます。ですが、奇跡的にも根の部分は残っており、それを育てていき、その後、現在の場所に植え直しました。それから80数年の月日が経過し、今日のような大木になったわけです。

現在、この木（たまぐすの木）を横浜市の文化財に指定し、横浜の歴史の証人として大切にしています。



開港資料館中庭にある
タマクス

横浜の歴史遺産を生かそうということですが、残念なことに横浜には歴史遺産がほとんどありません。当時の居留地では耐火建築など異国情緒溢れる町が出来上がりますが、関東大震災によってすべて倒壊してしまいます。

関東大震災ではそうした建物だけでなく、市役所、県庁などで残っていた古記録類はすべて焼かれてしまいました。また、関東大震災後の記録も横浜大空襲によって焼かれ、横浜の記録としてしっかりと残っているのは昭和20年以降のものです。私たちが横浜の古い歴史を辿る際は、横浜の中心地には資料が残っていないので、市街地周辺の農村や他の都市、あるいは海外に残されているものを参考にします。

横浜市の土木遺構に関して、横浜開港に所縁のある二つの土木遺構が残っています。まず一つ目が波止場です。1859年、幕府が貿易を行うためにこの地を開拓したときに、波止場が必要だとして造りました。1859年の7月に横浜は開港しますが、その年の1月くらいから工事計画が立てられ、そのわずか半年あまりで造られました。

今回、2009年の開港150周年祭が行われるに際して、横浜市港湾局が主体となって、この地区の再開発を行い、明治10年当時の姿に復元しました。その姿から「象の鼻」と呼び、現在、新たな観光地になろうとしています。



そして、二つ目に台場です。台場は、幕府の命令によって四国の松山藩が築造しました。当時、神奈川の台場は外国人が住む町が近かったため、外交の祝砲、礼砲を打つための施設として使われました。明治になると台場は徐々に減少していき、その後、撤廃されたあとは国の施設として大蔵省がその土地を管轄し、やがてJ Rの土地になります。ですから、その周辺部（神奈川区）を発掘すると当時の石組みが出てくるものと思われます。

現在、神奈川地域活性化推進協会が中心となって、こうした台場の保存運動を行っています。重なる震災、火災、戦災があり、横浜には古いものが残っていません。しかし、これらの土木遺構を見ることによって、横浜の国際都市としての歴史を実感することができます。横浜を含め、地域が自分たちの歴史を考え、新しい地域像を創り上げていくことが今後大切だと思います。



講演中の様子。皆さん真剣です・・・

横浜には、関東大震災以前の建造物に関しても若干残っています。関東大震災当時は、耐震の建物が出来始めた頃であり、横浜でも耐震の建物が徐々に建てられ始めていました。その代表的なものが、現在の神奈川県立歴史博物館の建物です。これは以前の横浜正金銀行の建物を引き継いで使用しているものです。横浜正金というのは、当時、外国為替を扱っていた日本最大の銀行です。この銀行の建物が明治末年に耐震構造の建物として造られ、それが今日も残っていることになります。その他に、開港記念会館や三井物産の建物も関東大震災前に建設されたものです。これらは土木遺構と並んで、関東大震災以前の横浜の歴史を映し出しているものだといえます。

今年は開港150周年ですが、これまで過去に2回の開港祭がありました。まず、明治末年に開港50年祭が行われ、次に、昭和の20年代に開港100年祭が行われました。当時の世相を照らし合わせると、50年祭の頃は、横浜が一番輝いていた時期です。日本が日清、日露戦争に勝ち上がって西洋の国々と肩を並べたといわれる時代、横浜が貿易都市として発展していく時期と重なります。

一方、100年祭の頃は、横浜がボロボロのときです。このときは、第二次世界大戦後になります。横浜は今でこそ目覚ましい復興を遂げていますが、その時の大空襲によって町の中心部はすべて焼かれてしまいます。戦後、アメリカ軍のマッカーサーが山下公園のホテルニューグランドに入り、そこが重要な公安施設になったため、横浜市内の大部分が接収されます。神奈川には米軍基地が多いですが、横浜にも基地が残っています。公安施設として接収されたため、横浜の貿易都市としての復興が遅れてしまいます。そうした時代の中で100年祭が行われた訳ですが、このときに横浜市が行ったのは史跡の指定です。同じ形の史跡表示をつくり、開港所縁の各場所に建造していきます。このときは確かに戦後の悲慘な状況でした。しかし、行政が中心となって史跡表示をつくるなど、市民とともに横浜の誇りを取り戻そうとしました。

そして現在、150年祭が行われています。戦後ほどではありませんが、かなり厳しい状況にあるといえます。外交の拠点は、東京に移って行きました。また、住民の意識も

かなり変わり始めてきました。家族は核家族化が進み、地域意識が希薄になってきています。歴史を勉強している我々からすると、今回の150年祭をきっかけに、新しいことが起き始め、また、横浜の歴史を振り返る良い機会になればと思います。

最後に、市民が語る地域の歴史に関して、ここでは、横浜の町についてお話します。横浜には伊勢佐木町という古くからの町があります。地域に特色のある町として、歴史を掘り起こし、新たな地域像をつくることの大切さを地元の方々が本に書いています。また、野毛や日本大通り、元町といった地域でも、もう一度地域の持つ個性や歴史を顧みる動きが始まっています。元町では、町角に地域の方々が造った史跡表示も建っています。こうした市民レベルの動きが今後もさらに起きてくるものと思います。これらが一つに集まり、大きな市民全体の運動につながっていくことが大切です。

横浜の歴史の記録は、開港資料館に多く詰まっています。ですから今後、我々はどのような形で史跡を保存し、まちづくりの専門家とつながっていけばよいのかを考えています。そして今後、似たような性格を持った町同士がつながって他の場所へアピールしていくために、市役所はそれらをまとめるコーディネーター役となって頂ければありがたいです。

2. ディスカッション



講師の西川先生と各都市代表者の皆様



函館市
函館の歴史的風土を守る会
落合 治彦

先日、函館市が魅力ある町のトップになったという新聞の記事を拝見しました。住民たちはあまり感じていませんが、他の地域の人からは、すばらしい町だという言葉が多く頂戴します。前回、函館市で景観まちづくり会議が行われたときに弁天台場の跡を案内しました。弁天台場は明治29年に造られましたが、その後に解体されてしまいます。台場の取り壊しは明治の時に行われましたが、石造りが頑丈で、解体に時間を要したと聞いています。

他の地域の人からご指摘を頂くのは、函館は色々なことをやるより、弁天台場を残した方がよかったのではというものです。しかし、地元の人々はそのような考えは全くないのです。函館という町は古いものはたくさんあります。しかし、それを粗末にしてしまいます。例えば、税関の立派な建物が取り壊され、海上自衛隊の宿舎になりました。そうした中で今問題となっているのが、弥生小学校が解体されてしまうことです。前回大会のときに、その学校をバスで案内しましたが、多くの方々から惜しいという意見が出ました。この小学校は、名のある画家や小説家を輩出し、「函館の学習院」といわれる伝統のある学校です。また、火事などがあった場合に市民が逃げるために造られた学校でもあります。今回、函館にとって大事な学校である弥生小学校が無くなることは、大変名残惜しく感じます。



新潟市
協同組合新潟あきんど塾
本間 龍男

新潟は、明治元年に新政府によって開港します。つまり、横浜などと比べると新潟は10年遅れての開港となります。新潟では、開化政策によって国立銀行が設立され、後の一期校である新潟大学や米会議所も設置されました。その他、新潟は物流面では海外から来航しにくい位置にありますが、北方の交易に関してはかなり栄えたといえます。その証拠に、現在も北方漁業の物流の中心となっています。

新潟市の歴史的建造物の保存に関しては、現在、新潟市が旧小沢邸を買い取り、補修工事を進めています。また、旧第四銀行住吉町支店は当初、行政は残すことを考えていませんでしたが、市民運動などが起こり、現在はレストランなどに活用されています。

新潟港は、国内航路として佐渡汽船や新日本海フェリーが就航しています。また、今年の6月から対岸の韓国、ロシアの都市と三角航路を結ぶことになり、カーフェリーの航路が開拓されています。

新潟の新たな取り組みとしては、漁業関係の施設が内陸に移転した関係で、その空き地となった場所を活用して新しく市場を開いています。我々では会社を設立し、フランスのマルシェのような、今後はハイカラな町をめざしてこの事業を展開していく予定です。



神戸市
神戸元町商店街まちなみ委員会
奈良山 貴士

神戸の元町は昔、神戸村などがあったところが明治7年に元町通りとなりました。元

町の商店街ですが、今年で「元町」という名前がついて135年目を迎えました。現在の店舗数は、300店舗です。しかし、震災後40%のお店が入れ替わってしまい、なかなか昔のようにお金をかけたお店が少ないという状況です。

神戸が他の都市と違うのは、阪神高速3号神戸線が町の中を通っており、町と港が分断されていることです。

阪神高速は昭和41年に建設され、それ以来、町から港が見えない状況にあります。そこで、地元では様々な案を考え、その一つとして平成19年に元マップというものを作成しました。周辺各地、港も含めて、6、7か所にマップを設置し、周辺の回遊性を高めようと試みました。また、ハーバーロードの歩道橋の下にサインを設置して、港からのお客様を元町に呼びこむための工夫などを行っています。今年から来年にかけては、神戸市の協力を得て、港に大型船で来られたお客様をシャトルバスで町まで送迎し、地元に観光客を集める取り組みを行っています。今年はその補助金がつきましたので、さらにその研究を進めている状況です。



**長崎市
十善寺地区まちづくり協議会
八木 一郎**

現在、長崎ではさるく博というものを開催しています。この時期は幕末編として、開港から明治に至る過程を紹介しています。また、本日からプレイベントとして始まっていますが、長崎居留地祭りも10年以上続けています。

長崎に400年前に町ができた場所は、小高い丘の地形であり、現在も三方が山に囲まれています。昔から海岸の幅、山の幅は変わっていませんが、近年は埋め立てによって徐々に陸地が増えてきています。つまり、港としては非常に手狭な状況にあります。

そうした中で、いかに長崎の港の景観をつくるかです。その中での課題は、市民参加をどうするかです。今まではすべて行政の発想で、後から住民が意見を言っていました。最近ではそれではいけないというムードが出てきています。それは、さるく博や居留地祭りといったイベントに多くの市民が参加して頂いている成果だと思います。

長崎は三方山に囲まれています。すぐ行くと山に行き当たるのが長崎です。つまり、長崎の港を生かすには、山の景観をどう生かすのかということも重要です。町と港が一体となったものにしていくために、高層の建物を防いでいくことが大切です。そして、市民が中心となってわが町を大切にすることが今後の鍵だといえます。

分科会2 文化の香り豊かなモダンな街 ～個性を生かして街を元気にしよう～

参加者：64名(函館市3名、新潟市10名、神戸市14名、長崎市6名、横浜市30名)

企画団体：関内を愛する会、馬車道商店街、伊勢佐木町1・2丁目地区商店街、野毛街づくり会、横浜中央地下街商店会、吉田町名店街会、BankART1929

協力：森ビル(株)、日の丸自動車興業(株)、黄金町エリアマネジメントセンター

【午前 見学会】

コース：横浜公園→日本大通り→象の鼻パーク→(バス利用) ベイブリッジから市街地を眺望→BankART NYK→(バス利用) みなとみらい・野毛→黄金町→伊勢佐木町・吉田町・マリナード→馬車道

9:30 横浜公園集合→日本大通り → 象の鼻パーク



↓ (バスに乗って、ベイブリッジから市街地を眺望します)





屋根の開くバスだったので、あいにくこの日は悪天候・・・

バスに乗った皆さん、ごめんなさい！
次回はぜひお天気のよいときに横浜へお越しください！



B a n k A R T NYK 見学

BankART 代表の池田さんに
説明していただきました



(みなとみらいや野毛をバスで見学)



黄金町 見学



伊勢佐木町・マリナード・馬車道 見学



【午後 ディスカッション】

会 場：北仲 BRICK

(司会：関内を愛する会 宮川)



←(左から)福田さん、佐久間さん、牛山さん、宮川さん

(左から)池田さん、鈴木さん→



第二分科会のシンポジウムをはじめたいと思います。先生とパネラーの方々をご紹介します。まずコーディネーターの鈴木伸治先生、横浜市立大学の先生でいらっしゃいます。次に関内を愛する会の理事長の池田さんです。それから伊勢佐木町1・2丁目商店街の牛山裕子さん。そして吉田町名店街会の専務理事、佐久間さん。それからお隣は野毛の街づくり会の福田さんです。どうぞよろしくお願いします。

(コーディネーター 横浜市大 鈴木准教授)

それでは第二分科会を始めたいと思います。最初私のほうから関内周辺の街の特徴について簡単にご説明させていただいて、その後、街の取組み紹介ということで、関内地区、黄金町、伊勢佐木町、野毛地区、吉田町という順番で進めさせていただきたいと思っています。

横浜は開港とともに徐々に発展を遂げてきた街でして、そういった歴史的な経緯を考えながら街の事を考えていく必要がある、それが街の特徴になっているとことができます。この街の歴史を語る上で重要なこととして、2回ぐらい大きな被害を受けております。1923年の関東大震災と1945年の5月29日横浜大空襲です。この大きな被害の中からそれぞれの街が非常に苦労をしながら立ち上がってきたというような経緯、これはそれぞれの街に共通した部分として考えていく必要があると思います。そ

ここに各街に色々な個性が出来上がってきていますが、各々の街について課題があるということとも言えると思います。

見学のとき、黄金町の辺りでは私はいい事を言いましたけれども、やはり課題はある。共通する課題としては、都心部の空洞化、大きな商業施設が立地することによる元からあった商業施設の停滞、それから個性の話ですが、昔ながらの店がなくなり、チェーン店が大きく展開してきていることで、どこの街でも同じような街になってしまっているという指摘もあります。



まずは街の歴史を簡単に振り返ってみたいと思います。

江戸時代、横浜は大岡川の河口のほうに砂州が伸びるような場所でした。その当時は横浜村というものがありましたが、ペリーがやってきて開港する事になって、新しい街が生まれ、それから港町として近代都市が発展していきます。その後関東大震災が発生し、復興を遂げますが、また横浜大空襲が起きる、という流れになっています。

見学会では横浜公園の遊郭があるところからスタートしましたが、日本大通りをはさんでこちら側（西側）が日本人街になりました。今日我々が訪れた場所はほぼ日本人街ということになります。

明治の半ばになりますと、関外地区も大いに賑わい始めます。ところが関東大震災があり、一から街をつくり直すという様な状況があったわけです。それから 1945 年に横浜大空襲が起こりますが、そこで大きな問題が起きました。

ひとつは関内、関外地区の伊勢佐木町が接收によってかなり占領されてしまったことで多くの企業が市外あるいは横浜駅の周辺に移ってしまった。接收がとかれてみたら横浜駅周辺と、もともとの旧市街の 2 つに別れ、街がまっぴたつに分かれている状況が出来てしまったのです。その問題を解消しようというプロジェクトが「みなとみらい」です。関内関外という古い街、それから横浜駅周辺の二つの街をつなげる形でみなとみらいをつくるということと同時に、海沿いを市民に開放するということをやってきました。

ずっと港湾用地であった場所を変えていくと同時に、緑の軸をつくっていかうとしてきましたが、横浜駅、みなとみらい、旧市街地区ではお互いに競争し合う立場になりました。今後は旧市街をどうしたらいいのか、これが大きな課題になっているわけです。

いくつかのポイントを指摘しておきますと、関内地区では従業者数では、関内地区と関内の西側の地区というのは以前に比べるとだんだんと落ち込んでいる。業務の集積を見ても、空室率は関内地区では下落率が高い。一方産業が全然無くなったわけではなくて、小規模なビルにはメディア関係、デザイン事務所、建築家の事務所などが多い。ではなぜそういうものが集まるかといいますと、ビルの老朽化のために家賃が安いということがあります。しかし落ち込んでいるという問題をどうにかクリアしていかなければ

ならない。商業の集積についても、関外まで見ていくとどんどん下がっている。

横浜の街にはそれぞれの街に個性はあるんですけども、それぞれの街に課題があって、これからその街をどうしていくのかということは今ちゃんと話し合わなければいけない時に来ていると言えるのではないかと、全体の趣旨説明として指摘させていただいて終わりにさせていただきます。

では続いて関内地区の現状について池田さんからご紹介いただきたいと思います。

（関内を愛する会 池田）

関内は明治の関所が立っていたところの内側を称して関内だったということでしたが、元町から情報文化センターがあるあたりも含めて広域的な関内です。関内を愛する会では、先ほどの日本人街のあたりを称して関内と言っています。バブルがはじけた後、これからどう活性化するかということがテーマになっております。

今、横浜市役所がここにあります。平成7年のときに市役所周辺を整備し、市役所をみなとみらいや北仲の辺に移すという答申がありまして、3年前にその課題が再浮上してまいりまして、北仲地区を再開発しようとしています。これについてどうしようかということ動いているというのが現状です。

この街はバブルの時非常に活性化しました。夜になるとタクシーが拾えないという状況があった。それが10年前にバブルが弾けてから10年間非常に景気が悪かった。こうした問題に対して、この地域にはエリアマネジメントという研究会がありまして、色々と議論されています。また人が集まるのに何か魅力がなくてはならない。建物をきれいにするなどハードな面での街づくりと同時に、人が集まってもらうためになにかソフトな仕掛けがあるのではないかと。ということで骨董市を関内にもってこようとしています。そのように今街づくりを徐々に始めていると言うのが現状であります。



（コーディネーター 鈴木准教授）

ありがとうございました。私もその勉強会には参加させていただいていますが、この地区は商店街として、馬車道、関内桜通り、ベ이스ターズ通りという三つの組織が縦方向にあり、尚かつ町内会が全部横方向に分かれています。そうするとみんなで合意を作って何かをやっていくときに非常に難しい。組織のみで街の目標を一つにしてやっていく、そういう動きをつくっていかねばならないというお話をしています。どうもありがとうございました。

つづきまして黄金町のお話を私からさせていただきます。

ここはもともと売春の街というようなイメージがついておりまして、それをどう克服していくのかというのが今の課題になっています。横浜では文化芸術創造都市ということを 2004 年から 5 年ぐらい取り組んでおりまして、黄金町はそのプロジェクトの 1 つにも選ばれています。

戦後から今日まで、この街は暴力団の支配する街という色彩がありました。それが京急の高架補強工事をきっかけに、そういう違法な店舗が外に出てきました。そのときに 100 店舗だったのが 250 店舗まで一気に拡大して、24 時間 3 交替で女性が立つ街になりました。そこで町内会の方々が立ち上がって警察・行政に働きかけて、違法店舗の一掃ということをやったわけです。もともと黄金町は、性風俗営業は認められていない場所でした。それらは戦後からの立ち上がりの中で黙認されてきたという状況でした。また黄金町界限ではエイズの問題や人身売買の問題もありまして、これは看過できないという事で黄金町の動きが始まったわけです。



黄金町地区見学の様子

今は京急沿いにはかつての特殊飲食店が立ち退いた建物が並んでいるような状況があります。これを文化のある街として、空いたところを埋めていこうということをやっているわけですが、基本的な考え方としては地元、企業、行政、警察、これが一体となってやらないと全く街の活性化、街の浄化につながっていかない。どれか一つが欠けてしまってもこの街の街づくりは進められないということです。それから地域の違法な店舗はその土地や建物をできる限り市のほうが買う。そして賃貸をするという方針を掲げています。

また高架下をモデル的に活用して街に少しでも賑わいをつくっていくということで BankART 桜荘、STEP ONE という地域防犯拠点ができ、高架下の工事壁には子供たちと一緒にウォールペインティングをやったり、また横浜市大と地元が協働して昔の違法な店舗を一つ借り上げて街づくりに活かすということもしています。また地域の小学生と大人の意見を載せた冊子、安全・安心の街づくりマップをつくり、全校配布をさせていただきました。さらには商品開発を街で、という事で「黄金サイダー」という地サイダーをつくるプロジェクトをやりました。

やはりこれらのことに反対される方もいらして、一進一退の状況がありました。地域の活動を盛んにしていくといってもある程度限界があるのかということで、地域のつながりをつくると同時に、実際に黄金町バザールというアートイベントをやってみようということになりました。地元の人たちはかつての売春宿の看板を撤去する活動をしていただき、スタジオの建設、アートイベントの準備など全部平行して行いました。オープニングの時には 700 人ぐらいの方に来ていただきました。地元の人としては励みになったと聞いております。このように人が集まるイベントをやってきました。

現代芸術とは非常に分かりにくいものだと思われがちなのですが、子供達の絵からぬいぐるみを作ってくれるというワークショップや、陶芸とお茶会を併せた参加型のアートがあります。またイッセイミヤケの店舗が一時的にできたり、それまで空き店舗になっていたスペースがインフォメーションセンターとして非常にきれいに改修されたりしました。空き店舗を利用して写真館や地元の商店主の方の肖像画の展覧会、そして地域とのつながりをつくるということで、私どもの学生は地元のお店の食材を使ってフードイベントを開きました。今日見ていただいたコミュニティカフェと地域ブランドショップですが、街のつながりをつくるということをテーマに掲げて活動しています。先ほどのイベントはボランティアの方に支えていただきまして、80 歳ぐらいの高齢者から小学校 4 年生の男の子まで集まり、地域と一緒にになりながらこういう動きを作っています。

総括しますと、一つに黄金町が何をしているのかと申しますと、ネガティブなイメージを払拭して都市のブランドをつくるということと、アートを通じてコミュニティを再生するきっかけをつくらうということです。もう一ついま取り組み始めなければいけないのは不動産のマネジメントです。空いたビルが誰か分からないような人に使われるのではなく、信頼できる人に使っていただける。それで地域の活動と一緒に街づくりの活動を行う。そういった事を地元で一緒にプロデュースをしていきたいと考えています。黄金町からの報告は以上です。

続きまして今度は伊勢佐木です。牛山さんからお願いします。

(伊勢佐木町 牛山)

来たくなる街、働きたくなる街、住みたくなる街を目指しております、伊勢佐木町の牛山です。

伊勢佐木町は今から 135 年位前、明治 7 年にできました。伊勢佐木町は吉田新田という埋め立てによる街です。それから今日までに 3 回マイナス要素を受けながらそれをプラスに変えてきた街という自負があります。

まず一つは大正の大震災。この後確か伊勢佐木町は浅草を凌ぐ賑やかな街になりました。それから第 2 次世界大戦による空襲、その後 8 月 15 日終戦になった後、接收を受けまして、昭和 31 年までの約 10 年間おもだったビルは、今日ご覧いただいた競馬場の馬券売り場のエクセル伊勢佐木、横浜松坂屋、有隣堂の前のビル、不二家のビル、これらいくつものビルが PX とか劇場、食堂など兵隊さんのために供されるという形で、商店街として戦後のスタートを切りました。

伊勢佐木町の特徴というのは老舗が残っていること。古い方々がしっかりしていて、私は伊勢佐木町で 4 代目ですが、結構そういう人は多いです。そのため非常に結束が固く、何をするのもすぐできるという街であります。皆様のお手元にお配りした OLD but NEW という雑誌を後で読んでいただければ伊勢佐木町がどんな街かという事が分かっていただけたと思います。

今日皆さんと街を歩いていまして、伊勢佐木町の街を皆様が来て頂いて安心・安全で住みたくなる街にするにはどうすればいいのかということをずっと考えました。というのは黄金町のこともあります、



すぐ反対側の曙町というところも性風俗の街です。これはさっき皆様が歩かれていた横浜公園にありました遊郭が焼けた後、伊勢佐木町1丁目の入り口に越してきたわけです。そこからそういう歴史は始まっているわけですが、申し上げにくいですが、男の方がいる限り絶対なくならない。ですので、住み分けていただければいい、行くところを分けていただければいい、それから時間を分けていただければいいと思うので、我々はそれを行っています。

そこでメインストリートには、そのような店やギャンブルが出てきては困るということで地区計画を作ろうということになりました。これが延々と平成14年から始めまして、施行されたのが平成18年の2月の15日です。ところがご参考に申し上げておきますと、私たちがこの条例を作って伊勢佐木町地区に地区計画がかかったからといって安心していたんですが、伊勢佐木町のすぐ裏側は別の街なんです。これも伊勢佐木町から一棟の建物であれば問題ないんですけども、最近また私たちが規制をしたものができるようにして、今もう一度地区計画の変更を検討し、来年の1月の施行を目指しております。

次に皆さんに質問いただいたのは、道路に黄色い線があるのは何ですかと言われました。あの線は全く勝手にマナーラインと名づけて2本の線を引っ張りまして、看板や店の商品、駐輪などを規制しているものです。商店主の許可は得なくて、事後報告事後了解という感じでしたけれども、あの中に全部収めてくださいねということで、私たちはやっております。混沌とした商店街ですのであまり規制をかけるのはまずいんですけど、来て下さるお客様方がいかに心地よく街で遊んでいただきお買い物をしていただいて、お金を落としていただいて、またリピーターになっていただけるかということで結束して進めております。ありがとうございました。

(コーディネーター 鈴木准教授)

ありがとうございました。やはり街を維持していくためには色々自分たちのルールを作っていかなければならないというお話で非常に参考になりました。

続いて佐久間さんのほうからお話をいただきたいと思います。



(吉田町 佐久間)

吉田町の街づくりには3大転機がありました。まず一つに太平洋戦争における米軍による接收。次に昭和30年代横浜駅西口の地主でありました相模鉄道による横浜駅西口の整備、これが2つ目の転機になります。それから根岸線の開通。これにより人の流れがぐっと変わってしまいました。これが3つ目の転機になります。

太平洋戦争で横浜大空襲が起きた後、伊勢佐木町と共に米軍に接收されていました。このように何もなくなったところから復活を果たしてきました。接收が解除されたころには、吉田町の長老たちによれば横浜で一番の活気のある場所になったんだという話です。昭和35年の横浜駅西口の写真を見ていただいていると思いますが、これと比べても吉田町の写真ではカラーで写っている分商売がうまくいっている感じがすると思うんですが。次に一大転機が訪れたのが、電車が桜木町から磯子

間に開通いたしました。これによって人の流れが本当に変わりました。

吉田町は主に外的要因によってどんどん変わったという街です。その中で何かやらないとどんどん落ちていく一方なので、何かやろう、何かしら特色を作っていこうということで我々は動き始めました。もともと物品販売の店が多かった街でしたが、シャッター通りになってきました。その後、吉田町は直線で 250m ぐらいの脇に店があるぐらいの狭い街ですけど、バーが 30 店舗ぐらい開店しました。これは別に街で呼んだわけではなくて、自然発生的に開店しました。これはちょうど街が悪くなっていった時期に、先代さんが疲れたから棚を貸してやろうということで入ってきた若い方たちが商売をしたことで、バーという形態が一番マッチしていたのでしょう。吉田町はこのような特色ということです。さらに特色としてはほとんどチェーン店がありません。ほぼすべてが個人経営のお店です。そこでは吉田町でしか得られないサービスというものを飲食店の場合つくるができると思います。これは将来的にはどんどん強みになっていくと思われます。また若い店主たちが集まり、積極的に飲食店組合を作って、バーを盛り上げていこうと言っていただきまして、飲食店組合の名前を吉田町バーズストリートと名づけて盛り上げております。

様々なイベントも行っております。季節に合わせたおいしさのカクテル。オリジナルカクテルのイベントです。一回イベントをやるごとに 30 個ずつオリジナルカクテルが増えていく。その内カクテルブックなどを発売しようと考えておりまして、このように街のブランド力を高めていく取組みをバーズストリートではやっています。

アートの街という特色もあります。去年の 10 月に行いました、ラ・マリアヨコハマ・アジアプレミアム。これはアルゼンチンの世界的に有名な美術作家、マリアペンツォッティさんによるものです。その世界ではすごく有名で、世界中を転々として公演をされている方に何故か吉田町を気に入っていただきまして、こちらも頑張って誘致したわけですが、アジアでやっているのは吉田町だけというアジアプレミアムをしました。こうしてアートの街としての特色を作っていこうと、これをやったときはすごく街の賑わいがありました。このようなイベントをやることに対して一番問題になってくるのは路上です。このとおり道路の通行止めを警察が許可するというのが一番難しいです。こういう根回しがエネルギーの半分ぐらいかかってまいります。それを超えるような情熱がないと、このようなイベントというのはなかなかできない。



今年で 10 回を数えるのですが、吉田町通りアーツアンドジャズフェスティバルというお祭りも地元でやっております。アートとジャズのイベントということで4月にやらせていただいております。これもだいたい地域の方には認知されてきたかなと思います。どんなことをやるかという、サックスを吹いていた、おじさんが踊っていた、似顔絵を描いたり、何かを売っているなどアートなので前衛的な感じのものをやらせていただいております。

こういう仕掛けを一つ一つ積み重ねることで、ブランド力を高めようとしています。アートもジャズも吉田町と関係ないのですが、10年もやっていると段々にも無かった所からそういったものが形成されてきて、アジアプレミアムのような話をいただけるまでになってきました。バーの方々にも協力いただき、出店を出していただいております。売上金もお祭りに寄付していただいたり、次のイベントやハード整備に使ったり、若者が中心になって活動をしている街であります。

これからはまた別にアートフレームというものを街のいたるところに設置していきます。これは例えば芸術大学や専門学校等に通っているお金の無い若者に枠を例えば10ヶ月1000円で貸しまして、屋外ミュージアムというのを企画しています。

今ちょうど色んな街づくりが企画段階で、そういう事を一つ一つ成功させていって、次回、もう一巡二巡しまして吉田町に戻ってきたときには、前回見た時よりも素敵になったといわれるような街づくりをやっていきますので、皆様10年後を楽しみによろしく願います。

(鈴木)

ありがとうございました

わりと若手の街づくりの担い手のひとの交流会をすると、吉田町から大量に人が来ます。またよく飲む。ちょっとお酒癖の悪い人も来るとい感じなのですけれども、非常に元気のよい街になりつつあるんじゃないかと思います。それでは野毛地区について福田さんからお願いしたいと思います。



(野毛街づくり会 福田)

今日、皆様は関内・関内と広いエリアをまわられましたが、じつは横浜市ができた明治22年には5.4ヘクタールしか無かったのです。ところが野毛には一番古い住人は鎌倉時代から住んでおりまして、横浜でも古い街です。

戦前の穏やかな時期、鉄道の開通で明治から大正にかけて街は急に開けます。日本の財政を担ったぐらい金が集まり、横浜の財閥商売のやりやすい場所だったようです。大富豪も野毛に住みました。そのため富豪に対するサービスも充実し、医者や花屋、おめかけさんもいたようです。

これは戦争までのことで、戦争に負けると横浜は政治商業の中心部をすべて奪われました。関内・関外は74パーセントほどの土地を接収され、戦争から復興は朝鮮戦争の後で、財閥解体し、終戦間際は学童疎開がありましたが、実際はものも疎開していたため、インフレでお金はあまり信用できない中、昭和21年、日本で最大の闇市として復興していきました。砂糖など贅沢品は闇市に行けばふんだんにありました。それらはアメリカの物資が横流しされたものでした。こうした状況は10年ぐらい続きました。日清戦争の後には中国人や朝鮮人が増え、日本人は贅沢品を売ってはいけなかったのですが、中国人や朝鮮人に雇われたといえは見逃されました。そのようにして商売ができたのです。欲しいものならなんでもある場所であり、労働者もたくさんやってきました。日雇い労働者は夜越しの金持たない、それほど仕事にあふれ、とても潤っていたようです。時間がないようなのでこの辺で。

(コーディネーター 鈴木)

激動の歴史だと良く分かりました。残る話は後半のディスカッションでどうぞ。

それでは後半のディスカッションを始めます。各都市から質問や意見を頂きながら進めることにします。前半の議論は割と組織の話が重要かと思いました。伊勢佐木はかなり強固だという話で吉田町では若い人が多く入って新たな街づくりが進んでいるようです。そうした組織のあり方について各都市の状況踏まえてご質問など頂きたいと思います。

まずは神戸市の吉田さんご質問、ご意見をどうぞ。

(神戸市 吉田)

関内の話を伺ってまいりましたが、横浜市の行政はとても信頼感あるように感じました。街づくりが進んでいる中で、行政の役割、主体形成、担い手はどのようにしてパワーを得ていくのでしょうか。神戸の元町では土地利用は縦方向に、組織は横につながっていて、どううまく編むのか悩みです。オフィス街が一気にマンションになり、今まで住んでなかった場所にどんどん未組織の住人が増えています。こうした都心部の構造変化に対して、主体形成の取っかかりをどのように見つけるのか。担い手の形成をどうして行ったらいいのか。地域と別の街づくり組織なのか、連携しているのかなどヒントと事例を教えてくださいたいと思います。

(コーディネーター 鈴木)

横浜のそれぞれの地区で別の状況があると思いますが、関内地区ですと町内会は横の方向、商店街は縦の方向で、合意形成が出来づらい状況があります。みなとみらい線開通後はマンションに新しい人が入り、町内会を組織することが難しいようです。池田さんから回答をいただけますか。

(関内を愛する会 池田)

関内のつながりは、横方向に8つの町内会、縦に馬車道商店街、中央振興会、ベ이스ターズ通り、そして関内を愛する会はその全体を見る組織です。マンションはセキュリティがしっかりしていて、町内会の人の中に入っていけない部分があります。町は高齢化していくが新しい方は入ってこないということが問題になっています。

あるときマンションがイベントに対してクレームをつけたことがありましたが、それで初めてマンションの人と話が出来ました。そこで会員になるよう押しかけて、早く街になじんでいただこうとしました。8つと3つの団体、そして関内を愛する会、これを一本化する模索をし始めています。一般社団法人が馴染むだろうと思っておりまして、組織作りを始めています。

(コーディネーター 鈴木)

関内にエリアマネジメント研究会がありまして、連合町内会、商店街、関内を愛する会、そのほか地域団体、市大を含めて研究会を始めました。こうした組織は関内で初めてですが、街のことを自分たちで考える動きがやっと出てきたわけです。

笹原さん、函館は組織の点でいかがでしょうか。

(函館市 笹原)

函館では地域交流街づくりセンターが活発な活動の場所になっていますが、組織がやはり難しいです。地域ごとの商店街、またはエリアごと、各個人の利益優先になってしまっていて地域交流ができていなかったところ、いろいろな団体、NPO が交流し始めたところでは。そこからどういうふうに移行していくか、色々な組織立ち上がり、函館はバル街などができました。魅力的な街として1位になりましたが、実態がついていないような気がします。これは反省点です。

このように組織力が課題ですが、地域と行政とのギャップが大きいというようにも感じます。横浜は行政と地域の接点が近いようで、中間を埋める人がよく機能しています。函館にもいますが、行政と離れている場合が多いです。いま地域づくりに踏み出そうとしている状態です。逆に今日の会議で得た物を参考に持ち帰っていきたいと思います。

(野毛街づくり会 福田)

かつてバブルの絶頂期は悔しい思いをしたわけですが、地価が上がらず、つまり地上げの被害が無かった。今になってみれば横浜の中心街に部落が残ったことになります。孫から大人、おじいさんまで皆知っているという関係が出来ました。How to Say ではなく How to Did の関係です。そして30年ほど前には野毛地区街づくりを考える会という組織を作りました。町内と商業団体が等しく集まり、会議を月に一回定期的に行っています。闇市では怖い街でありましたが、町内会が入っている効果が発揮されました。ピンクの店が増えたようなときには、商売屋ではおまわりさんは相手にしてくれませんが、住民が行くと動いてくれます。行政は住民に弱いようで、結果的に野毛は住民が組織に入ってきたことで、街づくりがとてもやりやすくなったようです。

(コーディネーター 鈴木)

私も警察に許可をもらいに行くときなどの特別なときは、町内会を通すようにしています。行政にとっては町内がどうしたいかと言っていると重く受けざるを得ないので、しっかり伝えていくことが大事です。

新潟ではどうでしょうか。

(新潟市)

私が景観行政に関わったのは今年からですが、新潟の現状としては、組織を維持するためにお金が必要ですが、最初はボランティア的だったり会員制だったりしますが、街のためには足りません。組織を運営していくお金は行政からはなかなか出ませんが、お金はどうやって捻出しているのでしょうか。

(新潟水辺の会)

同じく新潟の、新潟水辺の会のものです。汚い川をきれいにしようという運動をして、20年ぐらいになります。私はNPOでも手伝うことがありますが、市民活動でやってきました。改修となれば行政が絡むので、その事業費が出る場合があります。整備した水

辺で桜祭りを水辺の会を行い、資金を集めるような活動もしています。

今は水辺の会議をやっていますが、NPO は行政を巻き込むイメージでやっているようです。水辺の会にも行政が関わっていますし、狭い分野ではありますが研究者もいて市民行政一体になっています。ただ行政は人事異動があるために要望も実現できなかったりすることがありますが、徐々に実現して来ています。

(コーディネーター 鈴木)

テーマ型の組織、地域型の組織であるとうまく連携がとれると思います。黄金町も川沿いがあり、川と街づくりということで勉強会を開きました。桜祭りも行ない、川沿いの町内会が連携してお祭りをしています。こうした活動をネットワーク作りに活かしています。長崎からはどうでしょうか。

(長崎市)

長崎では市民の文化と行政の文化で言語が違う気がします。市民力を発揮するため地域に職員が出ていくことになりました。行政と市民で言いたいことを言うワークショップを行ない、いろんな会のリーダーそれぞれ 30 名が集まりました。市民からはこのような会をどんどんやってと言われました。こういうことを継続してやって行くことで、徐々にノウハウを蓄積し、行政と市民が近づいてきました。市民にもお金を持っている団体がありますが、より街づくりに使いやすくなるような工夫もあるので、より対話を深めていきたいと考えています。



(コーディネーター 鈴木)

関内では地元からワンストップ窓口を作って欲しいという要望があります。都市計画、商店街などいろいろな窓口が役所にはあるので、よろず相談ができる窓口があると非常に便利になります。

横浜の行政と地域組織の関係について横浜市の方からコメントをお願いします。

(横浜市)

関内の新市庁舎をどうするかという課題が重なり、関内の活性化を考えていこうとするにはちょうどいい時期です。いろんな地区から研究会に来ていただいて、専門家を入れ、地元だけの意見交換をやり、現在は手探り状態です。皆さん熱心に考え、ひと癖もふた癖ある方が多いので心配ではありますが、皆が良くしていきたいと思っています。再来年とか5年ぐらい先には良くなってきているのではないのでしょうか。

(コーディネーター 鈴木)

私もメンバーに加わっていますが、それぞれの地域ごとにがんばっている様を見えています。様々な組織が全体としてつながっていかなければいけないと思いますが、この研究会は皆で一堂に会していることが大事なことだと思います。

ここで伊勢佐木町、吉田町のことについて伺いたいのですが、お互いに地区ごとに接していますが連携されていますか？

(伊勢佐木町 牛山)

私ども関内・伊勢佐木町・野毛・吉田町はそれぞれ接しているわけですが、関外で困っているのは関内駅がバリアフリーでないことです。市役所側だけにバリアフリーになっており、すごい階段を下りないと伊勢佐木町側には出られません。そのような問題がある中、関内駅周辺地区再生推進協議会を立ち上げ、話し合いを行っていますが、街の方が皆様この意見に賛同いただいておりますので、一つの共通テーマや問題意識があれば組織はまとまると考えております。

(吉田町 佐久間)

牛山さんのお話を補足しますと、街単位だとできることが少ないということが言えます。この協議会は商店街の上部団体みたいなもので、商店街でも協議会でも同じ人が参加しています。問題の共有はその上部会でやっています。色々な町内会がいると思いますが、皆ちからを合わせ、先ほどは横浜市では行政と市民の距離が近いと言われましたが、我々も色々と言っています。共通の危機意識を共有することから、なんとなく皆が集まっているのが現状です。

(コーディネーター 鈴木)

あるテーマをきっかけに組織が形作られるということは実際あることです。駅周辺をどうするか学生に課題を出したことがあります。とても難しく大きなテーマだと思います。

(新潟市)

商店街として参加していますが、新潟駅では10年後、在来線を高架化して道路を通すことになっています。行政指導によりセットバックなどして街も準備をしていましたが、いざ用地買収が出てくると、役所の担当課が5つ関わっています。用水の表面と下とで管轄が違っていました。一つのものが表面と中で違うということになっているのです。また一つのことに回答いただけるまで半年はかかります。窓口を一本化することと、スピードをだしてほしいと思っています。5都市の皆さん同じではないでしょうか。

(コーディネーター 鈴木)

ワンストップ窓口の背景には老朽化したビルの問題がありました。都市整備局のメニューや経済観光局の施策はバラバラになっていますが、うまく組み合わせると上手く使

える可能性があります。これからは作るだけではなく、ソフト的な対応が重要です。ソフトハードを一緒に考えられるようになる体制づくりが必要です。六川さんにワンストップ窓口についてコメントをお願いします。

(馬車道商店街 六川)

都市デザイン室は今も頑張っていますが、これまで私がまちづくりに関わっていく中で、行政に色々窓口があり、時間かかっていましたが、横浜にはデザイン室という組織があり、私はすべての案件をデザイン室に投げることにしました。そうすることで時間ロスが無くなりました。最近はわかりませんが、そういう今までデザイン室のイメージがとってもいいと考えてきましたので、よろず相談所を作って欲しいと提案しました。ワンストップでできるということには非常にメリットがあると考えています。



開港5都市 モボ・モガを探せ！ 特別展

2009年9月3日～13日

BankART Studio NYK

主催:BankART1929

2005年からスタートしたプロジェクト。

今回の開港5都市景観まちづくり会議に合わせて、特別展示をしました。



分科会3 ハイカラ文化と市民の活動

参加者：56名(函館市6名、新潟市6名、神戸市7名、長崎市4名、横浜市33名)

企画団体：山手まちづくり推進会議、NPO 法人横浜シティガイド協会、元町エスエス会、元町自治運営会、元町クラフトマンシップ・ストリート、横浜中華街発展会

協力：(財)横浜市緑の協会、フェリス女学院

【午前 見学会および講演】

コース：みなとみらい線元町・中華街駅→アメリカ山公園→イギリス館【江刺昭子氏による講演】→山手地区散策→フェリス女学院（資料館見学）→中華街・元町

スケジュール：

9：30 元町中華街駅集合

10：00 イギリス館

↓

11：00 【街並みを見学しながら移動】

講演 ミッションスクールと市民の活動

講師 江刺 昭子氏

(講演要旨は41ページに掲載)



12：00 フェリス女学院 資料館見学

↓

13：00 中華街にて昼食（重慶飯店）



14：00 【中華街・元町を見学しながら移動】



(イギリス館にて)

講演 ミッションスクールと市民の活動

講師 江刺 昭子氏

(講演要旨)

<横浜の女子ミッションスクールについて>

○フェリス和英女学校

1870(明治3)年、ヘボンの妻クララの家塾を引きついでM・E・キダーが、女生徒4人で英語塾を始めました。当初はヘボンの施療所の一室を借りていましたが、72年に県令大江卓の好意で野毛山の県官舎に学校を移し、「キダーさんの学校」と呼ばれました。75年には山手178番に校舎を新築し、寄宿学校としてスタート、フェリス・セminaryと名付け、アメリカの私立の女子中等教育機関であるセminaryに模して、教育理念がととのえられました。

81年、2代目校長E・S・ブースが就任して、学科課程を整備・明文化し、翌年、第1回の卒業生を出しました。しだいに規模を拡大し、87年の生徒数は185人。89年、フェリス和英女学校と改称。99年、私立学校令により認可後、生徒数は200人以上になり、横浜のキリスト教主義女学校のなかで最大の生徒数となりました。これが現在のフェリス女学院です。



○共立女学校

1871(明治4)年、アメリカの婦人一致外国伝道協会から派遣されたM. P・ブライン、J. N・クロスビー、L・H・ピアソンの3女性宣教師が、山手48番にアメリカン・ミッション・ホーム(アメリカ婦人教授所)を開設し、女子教育と混血児の養育を開始しました。翌年には山手212番に校舎と寄宿舎を新築して引越し、校名も日本婦女英学校としました。これが日本最初的女子寄宿学校です。



75年、共立女学校と改称し、学課はキリスト教を通して英語及び簡単な普通学、音楽、裁縫、西洋流の家政などから始まり、高等な普通学も教えるようになりました。99年に私立学校令による認可を得ました。これが現在の横浜共立学園です。

なお、ピアソンは1881年に隣接地に伝道女学校(のち共立女子神学校、日本女子神学校)を創立し、伝道者を養成しました。

○薫女学校と横浜紅蘭女学校

1872（明治5）年、フランスのサン・モール会の修道女マリ・ラクロ（メール・マチルド）は、プチジャン神父の要請で伝道先のシンガポールから来日しました。孤児と捨て子を集めて83番の建物に收容し、仁慈堂と呼ばれました。これが横浜で最初の孤児院です。孤児たちが学齢に達すると薫女学校を設立して普通教育とキリスト教教育を与え、就職、結婚への道を開きました。この事業を献身的に支えたのが八王子出身の山上カクで、薫女学校の初代校長です。薫女学校が私立学校として認められるのは1902年で、関東大震災で被災後、東京に移転しました。

マチルドは東京築地居留地でも孤児救済を始め、87年に一般女子の教育施設である高等仏和女学校を設立しました。横浜ではルガルドが事業を継承し、一般女子のために1900年、横浜紅蘭女学校を開校しました。これが現在の横浜雙葉学園です。



○横浜英和女学校

1880（明治13）年、H・G・ブリテンが山手48番に塾を開設し、英学、小学校教育を開始、生徒の年齢は10歳位までで、男女共学ながらブリテン女学校と称しました。その後、山手68番、120番に再移転。86年に男女を分離し、男子部は120番で横浜英和学校、女子部は山下町84番に移転して、横浜英和女学校と改称。88年に山手に戻り、男子部の隣の244番に校舎を新築しました。1912年に来日したO. I. ハジスは、戦時中の数年間をのぞいて校長を務めました。15年、南区蒔田に移転。39年、成美学園と改称。96年、横浜英和学院と改称し、現在に至ります。

○捜真女学校

1886（明治19）年、婦人バプテスト海外宣教師教会から派遣されたS・ブラウンが山手67番のバラック建て2階家で農村の少女7人を集めて授業開始。共立女学校卒の山田千代（E. コーンズ）が協力、横浜英和女学校と称しました。4年後、C・カンバースが来日して仕事を引き継ぎ、91年、34番に校舎を新築して移転し、92年、校名を捜真女学校としました。校風は質実剛健で勤勉。99年、私立学校令による認可を受けます。1910年、神奈川区中丸に移転しました。

（1884年に米国メソジスト監督教会婦人外国伝道会社から派遣されたC・ヴァンペテンが伝道者養成を目的に聖經女学校を設立。海岸女学校の漢文教師であった稲垣スエが教えながら学びました。

195人の卒業生を出し、関東大震災後、東京に移って日本女子神学院と改称し、のち青山学院神学部に合併されました。）

<キリスト教徒女性による市民活動>

○横浜婦人慈善会

1888（明治21）年にメソジスト婦人伝道会のヴァンペテン、二宮ワカ（共立女学校卒）、稲垣スエらが貧民部落を視察。89年に横浜婦人慈善会を創設し、施米などで貧しい人びとの救済を始めます。会員は117人。

バザーの益金や居留地の外国人からの寄付により、92年、西竹之丸に横浜婦人慈善病院（横浜根岸病院）を開院しました。貧しい人や火事・地震の被災者らを無料で診療しました。医師の一人である菱川ヤスは横浜共立女学校卒業後、米国で医師免許を取得した人です。1901年には社団法人とし、会長に知事の妻周布貞子を据えました。02年には、足尾鉍毒被害地から被災者を受け入れて治療しました。

1913（大正2）年、病院および附属財産として、土地817坪、建物237坪、附属設備一切と有価証券1万5千円を神奈川県済生会に寄付し、施療事業に終止符を打ちました。

○メソジストの社会事業

横浜メソジスト婦人伝道会は、さまざまな社会事業を手がけています。1881年に山吹町に貧児を教育する警醒小学校を設立、二宮ワカが教えました。これは、横浜初の貧児教育施設でしたが、経営困難で1921年に廃校となりました。

1889年、ヴァンペテンと二宮ワカが中心となり、根岸竹之丸に第2警醒小学校を設立しましたが、震災で廃校となります。1890年、牧師の妻シャーロット・ドレーパーが視覚障害者のための教育施設を作りたいと、周囲の助けを借りて盲人福祉会を設立しました。シャーロットの没後は、息子の妻マイラ・ドレーパーが遺志を継ぎ、現在の横浜訓盲院の基礎をつくりました。

1893年、二宮ワカが一般家庭の子どもを対象にキリスト教主義の神奈川幼稚園を開設。1894年、ヴァンペテンが八幡谷戸に開いた日曜学校を、99年に二宮ワカが設立者となって警醒学校付属教育所としました。これはのちに中村愛児園となり、平野ツネが引き継ぎました。

1905年、ヴァンペテン、二宮ワカらが日露戦争で出征中の家庭の子どもを預かる施設として、相沢託児園を第2警醒小学校の隣に設立しました。ワカの没後、野村ミチ、平野ツネ、城戸順らがその後を継ぎました。神奈川幼稚園をのぞき、いずれも生活困窮者や働く人のための実学教育施設でした。

○横浜婦人矯風会

1886（明治19）年12月に矢嶋楫子、佐々木豊寿らが東京婦人矯風会を設立しました。これは、万国禁酒同盟からの呼びかけにこたえたものでしたが、活動目的を禁酒に限らず、社会の弊風を矯正することも掲げ、一夫一婦運動や廃娼運動に力を入れました。横浜からフェリスの島田かし（のち若松賤子、フェリスの最初の卒業生で、『小公子』の記者として知られる）、平野はま・佐藤てつ（のちフェリス教師）ら8人を含めて14人が参加、一夫一婦建白運動にも参加しています。

93年には全国組織の日本婦人矯風会になるが、94年、横浜では別組織の横浜婦人矯風会ができました。中心は聖經女学校出身の城ノブだったが、約半年で日本婦人矯風会の横浜支部になります。横浜の初代会長は山本さと子（秀煌の妻）。1905年に4代目会長に就任した二宮ワカの時代から活動が活発になり、禁酒、廃娼運動のほかに、女中の夜学校を開設して裁縫を教授したり、娼妓を廃業した女性を集めて職業訓練をする横浜婦人ホームなどを開設して底辺女性の救済に力を注ぎました。

○横浜YWCA

日本YWCAは1905年に発足。横浜YWCA（横浜キリスト教女子青年会）は1913（大正2）年に中区本町に創立され、会長は室原富子。英文タイプ、速記、簿記などの職業教育講座を設け、聖書研究会や社会問題講演会も開催しました。アメリカへ移民する日本人花嫁を対象に語学、料理、

育児、作法などの講座も行い、関東大震災の被災者救援活動に力を尽しました。

○横浜連合婦人会

関東大震災後の11月、中区太田町の横浜YMCAの焼け跡のテントに市内の女性団体のうち20数団体が集まり横浜連合婦人会を結成（会長は渡辺タマ）。婦人矯風会横浜支部や横浜YWCAも参加。食糧や衣料品の配給に始まり、練乳の配給、職業紹介などを行いました。この活動のなかで、独自の会館建設の要望が生まれ、1口10銭の募金集めを開始し、1928年に横浜連合婦人会館を建設しました。民間の女性の手による初めての女性会館であり、横浜の女性のネットワークの強さを示しました。

○最初の女性代議士

1946（昭和21）年4月に行われた戦後第一回総選挙では女性代議士39人が誕生しました。そのうち神奈川県で選ばれた松尾トシと、福島県選出の榊原千代はフェリス出身、北海道選出の新妻イトは横浜紅蘭女学校出身でした。

○まとめ

・明治初期の横浜のミッションスクールには、地方から多くの方がきており、彼女たちは修学後、出身地に戻って女子教育に携わりました。また、出身校の教師として後進の指導にあたった人も多い。英語力があることから、留学し、帰国後、社会貢献した人も少なくない。岡見ケイ、菱川ヤス、石阪美那子、高田敏子、新妻イト、星野あい、江守節子、指田静、湯本アサ、坂西志保など。



・良妻賢母であるより、一人の人間として自立した女性になることを期待されました。よって、作家や俳人として、あるいは「職業婦人」として新しい職場を開拓した人も多い。医師、秘書、タイピスト、通訳、飛行士など。

・横浜は急速な都市化に伴って生活困窮者が増加しましたが、行政は無策であり、この都市下層社会を対象に、宣教師やキリスト信者が慈善事業・社会事業を展開しました。それを主に担ったのは女性です。東京では、慈善・社会事業の主な担い手は華族や政治家などの妻でしたが、横浜では女性キリスト教徒と商家の妻が中心になりました。

・公的な貧民救済が遅れているなかで、慈善をキリスト教の隣人愛的な道徳に結びつけて女性の役割としながら、女性を政治などの公的空間から排除したことは記憶しておくべきであります。

【午後 ディスカッション】

協同組合元町SS会会議室

コーディネーター：菅 孝能（株式会社山手総合計画研究所 所長）

○西洋館の活用について 財団法人横浜市緑の協会 深沢氏

私たち緑の協会は公園・プール等の指定管理者の役割を担っており、山手の西洋館7館も管理しており、7館とも全員女性の職員が働いています。指定管理者として1億

2000万円の運営費を与えられていますが、そのうち6～7割は人件費として消化されることとなります。そこで地図に広告を載せて収益を増やすなどの取り組みを行っています。

横浜の西洋館は震災後建立されたものです。外交官の家は明治に建立された物で、渋谷から移築されました。女性の感性で活性化する取り組みを平成12年から実施しています。

『演奏ボランティア』は、出入り自由など、条件付きとしています。7館計でこれまでに485組が演奏しています。『花と器のハーモニー』では、5000万円相当の食器を借り、9日間で5600人の来場者がありました。『夏と宵のコンサート』は、無料のコンサートです。『ハロウィン・ウォーク』の際は親子連れで賑わいました。『世界のクリスマス』の際は、7館全てで違う飾り付けを施し、25日間開催しました。『山手芸術祭』は、2月の閑散期に、実行委員会による運営で開催しており、今年で3年目です。

地域との連携に関しては、エリスマン邸喫茶室で婦人部のパートタイマーが働いていることが挙げられます。今後の課題・展開としては、これまで元街小学校の3年生が総合学習の一環で西洋館を訪れていますが、これを市全体に、中学にも拡げていくことを考えています。



○「山手地区のまちづくり」 山手まちづくり推進会議 石川氏

住民参加の経緯は、学校跡地に225世帯のマンションを開発する計画が持ち上がったことで、住民の間に危機感が生まれたことに始まります。平成16年2月に地区計画案を提出しました。そのねらいは、緑豊かな環境を維持すること、歴史的建築物を活かすことなどです。『山手まちづくり協定』として平成17年2月に成立しました。指針では、新築の際には建物の高さを原則10mに規制することなどを定めています。新築にあたっては、山手まちづくり協定に基づき計画書を提出していただき、審査のうえで場合によっては再提出していただくこともあります。



○「元町地区のまちづくり」 元町自治運営会 杉島氏

かつて、山下公園あたりには約100件の家がありましたが、強制的に疎開させられることになりました。

最近では、開港150周年記念の一環で、元町・中華街駅からのエレベーター・エスカレーターの整備をしたことにより、元町の回遊性が高まりました。



○「元町の活性化 現在のまちづくり」 協同組合元町SS会 山田氏

元町では、『安心・安全なまちづくり』の取り組みとして、平成9年7月に、商店街内に防犯カメラを設置しました。最初は目立ちにくいカメラを用いていましたが、現在は、はっきりとカメラと分かるものを用いています。また、商店街内の交差点に女性の交通誘導員を配備して、交通の安全を図ると同時にエレガントな雰囲気を出しています。さらに、平成18年1月からはAEDを設置し、また各店舗には酸素吸入器を設けています。

次に、『共同配送システム』と『授乳・オムツ換え車両』の紹介をいたします。まず、『共同配送システム』ですが、これは従来各店舗が個別に商品を仕入れるため店に配達にきた各運送業者がそれぞれトラックを止めていたのを改めて、同じトラックで一括して配達するというシステムです。この取り組みを始めた最初の6か月は苦労も多かったのですが、景観上良いということで、現在では定着しています。20以上の運送業者が違法駐車していたのが、共同配送センターで3台のエコトラックに振り分けられて各店舗に配達されるようになっていました。『授乳・オムツ換え車両』は、平成21年2月から新たに開始した取り組みです。デパートのトイレに授乳やオムツ換えの設備が整ってきているなかで、元町商店街も乳児のお連れの方にとって買い物しやすい環境を整備しようというものです。土曜・日曜・祝日に、授乳やおむつ交換ができる設備を備えた小型バスを商店街内に止めて、商店街にお越しになった方に利用していただけるようにしております。止める場所は日によって異なります。一日に約50組のご利用があります。



最後に、『ショッピングストリートのシンボルと街色』や『犬にやさしいペットバーの設置』について説明いたします。元町では、街の雰囲気に合わせて、郵便ポストの色を通常の赤ではなく黒としています。また、元町商店街では、建物の一階の壁面を道路から後退させて、あいた空間が歩道となっていますので、雨の日でも建物の二階部分が歩道部分の屋根となって、お客様が傘を差さずにショッピングをすることができます。

しかし、道路と交差するところでは、屋根が途切れます。そこで、道路を跨ぐように歩道部分に上屋を設置して、お客様が雨に濡れずに買い物できるようにしています。さらに、犬を連れてショッピングをされる方のために、『ペットバー』という犬の水飲み場を3か所に設置しています。他にも、商店街の入口には『フェニックスアーチ』を設置しています。

【質疑応答】

○西洋館では資金が少なく収入を増やすために工夫をしているとのことですが、現在入場料は無料となっているのを、100円程度でもとるようにすれば、収入も少しは増えるのではないしょうか。

→（緑の協会 深沢）たしかにその通りだとは思いますが、入場料無料というのは横浜市の判断によるものです。そこで、募金をするなどして収入を増やすようにしています。なお、長崎や神戸の西洋館は入場が有料で、無料なのは横浜の西洋館の特徴でもあります。

○（函館市 林）パートタイマーの時給はどのくらいとなっているのでしょうか。

→（緑の協会 深沢）時給876円です。嘱託職員は月給18万円です。

○（横浜市 大沢）『山手まちづくり協定』では事業者に計画書の再提出を求めることもあるとのことですが、事業者がそれを拒むことはないのでしょうか

→（山手まちづくり会議 石川）まちづくり協定の性格はあくまで紳士協定です。こちらからお願いすることはできますが、最終的には事業者の判断によります。こちらの希望は先方に強く伝えることにはしていますが。ただ、建物の建築に関しては再提出という事例はほとんどなかったように思います。



○（横浜市 成田）西洋館内に入るときに履くスリッパが不潔ではないでしょうか。かえって土足の方がよいのではないのでしょうか。

→（緑の協会 深沢）私も土足でよいとは思いますが、横浜市の方で土足を認めないこととなっています。クリスマスパーティのときは人が集まり玄関が靴でいっぱいになったりしており、これらの対応については現在横浜市と協議しております。養生のうえを歩くようにする、またはマイスリッパを販売するといったことを現在検討しております。

○西洋館の入場料が有料というのと無料というのでは意味が違ってくると思います。まちの懐の広さを感じます。

○（神戸市 中西）景観と、その次の段階としてのにぎわいということを考えたとき、神戸は、にぎわいはあまりないと感じます。神戸市内では市民が港へあまり行かないといえます。山手ではイベント等でにぎわいをつくることは考えておられますか。

→（緑の協会 深沢）バラのイベントや季節ごとに花を楽しむ企画を実施しています。その一方で、静かな西洋館がいちばん良いとも考えています。

○（緑の協会 深沢）函館でのウェディングを参考に、山手の西洋館でもウェディングができます。費用は15万円です。

○（元町SS会 山田）山手は建物・景観を大切にしています。横浜市民でも行ったことがない人が多いので、山手と元町で組んで企画をしているところです。地区一体でいい場所であることをアピールしていきたいと思っています。

- （山手まちづくり会議 石川）地区計画の取り組みの初めと変わってきた部分もあります。『マンション建設反対』という最初の目的は風化しつつあります。まちづくり活動にとって、専門家の存在は不可欠です。そして、行政の協力。この二つは非常に重要なものとして位置づけられます。そして、『自分たちがやるんだ』という住民の意志、これが一番大切であり、強い自覚を持たなければなりません。また、課題もいろいろあります。みどりの保全に関しては、みどり税を活用することも検討の対象です。
- （元町自治運営会 杉島）成功までには長い時間が必要です。理解・合意形成には時間がかかります。また、まちづくりにとって、女性の働きが非常に大きくなっています。
- （元町SS会 金指）『元町はこういうまちだから』と、協力してもらうよう市と協同して強くお願いすることにしています。
- （神戸市 柴田）全体的なバランスがとれたまちという印象です。神戸では道路を2車線から1車線にして歩道の拡幅を検討しています。自転車の対策についてはどのような取り組みをしていますか。
 - （元町SS会 山田）もともと駅から半径300mは駐輪禁止となっていたところ、元町全エリアを駐輪禁止にしようと行政の側から提案がありました。行政の方が見回り、駐輪車両にはシールを貼り、時間が経つと撤去しています。放置して帰ることがないので元町では自転車には困っていません。
 - （元町自治運営会 杉島）年に何回かキャンペーンを実施しています。
- （元町SS会 山田）ビラ配りの問題は他の都市では問題になっていますか。現状は警察からの道路使用許可があればできることになっています。みなとみらい線が開業したとき、元町の店以外がビラ配りを始めました。私は警察に陳情することとし、10回以上にわたって頼みに行きました。すると、警察は業者に対しSS会で許可をもらってから警察に許可を得に来よう指示するというように、ちょっとやり方を変えてくれました。何回もお願いに行くという熱意が実現に繋がりました。
- （元町SS会 山田）落書き消しについては、商店街の団体が100名くらいで1～2時間かけて一斉に作業します。落書きがあればさらに落書きが増えるという事態を招きます。
- （横浜市都市デザイン室 中野）先日整備されたアメリカ山は、駅のそばの国有地で、元町と山手を繋げる役割に期待しています。これからの都市力には市民力がかかっています。

第3日目

2009年9月13日(日)

全体会議Ⅱ

分科会報告

大会総括

代表者会議報告

大会宣言

開催都市引継ぎ

閉会

全体会議Ⅱ

日 時 2009年9月13日(日) 10時～11時30分

会 場 横浜メディア・ビジネスセンター1階 ヨコハマNEWSハーバー

司 会 高橋 敏昭(横浜の観光を考える会)

【分科会報告】

分科会1 港の資産を生かして新たな魅力づくり

報告者

社団法人神奈川地域活性化推進協会

榎本 康 氏



分科会一では歴史資産、遺構をいかにまちづくりに使うかということがテーマとなりました。函館から2名、新潟から5名、長崎から4名、神戸から8名、あと横浜の各団体および一般市民の方を含めまして45名の方がご参加いただきました。

マリントワー展望台、ホテルニューグランド、山下公園、大さん橋、大さん橋ホール、象の鼻パークを見学しました。それから、情報文化センター2階で食事の後、日本大通り、開港資料館を見学しました。玉楠の木の前で記念撮影をしました。

午後は、開港資料館でのシンポジウムで、主任調査研究員でいらっしゃいます西川先生の講演をいただきました。西川先生からは火災や戦災、震災などによる資料集めのご苦労について、また土木遺構あるいは建築物の保存についての講義をいただきました。前市長の中田市長の活動のほか、元町や伊勢佐木町の市民活動、市民が語る歴史等についてご紹介いただきました。

そのあと、函館の歴史風土を守る会から落合様、協同組合新潟あきんど塾の本間様、神戸元町商店街町並み委員会の奈良山様、十善寺地区街並み協議会の八木様、各都市のご報告、事例をいただきました。その中では旧小学校の保存、にぎわいマルシェについて、街の情報マップの整備、景観を阻害する高層マンション対策などを報告いただきました。さらに各都市から、歴史資産の保存まちづくりに関して市民グループの活動が活発であることなどに感銘を受けたということ、また急激に港が整備されたので驚いていらっしゃるという方、その反面、昔の面影が少なくなってくるという意見もあり、若干寂しいということが感想としてあがりました。

分科会2

文化の香り豊かなモダンな街～個性を生かして街を元気にしよう～

報告者

関内を愛する会

池田 翼 氏



分科会二は文化の香りゆたかなモダンな街、個性を活かして街を元気にしていこうというテーマで進めました。過去2回の横浜大会では関内が主体だった街の案内を、今年は関内・関外で行いました。総勢62名が第2分科会に参加していただきまして、函館市から3名、新潟市から10名、神戸市から14名、長崎市から8名、横浜関係者が27名ということで、総勢62名で進めました。

横浜公園からスタートし、象の鼻パークへ。その後、オープンバスを貸し切りにしましてベイブリッジから横浜を眺めてから、BankARTを見学。またバスに乗りまして、みなとみらい、野毛とまわり、黄金町へ来て町内を見学。その後、伊勢佐木町1・2丁目を見学した後、馬車道の相生で食事を取りました。

午後のシンポジウムは、午後2時半から4時半までの2時間行いました。そこではまず、横浜市大の鈴木先生から現状の関内関外それぞれのご説明受けまして、関内と伊勢佐木町、吉田町、野毛のそれぞれの街からも現状をご説明いただきました。

その後、質疑で皆さんのご感想、各都市の課題等について議論をしました。他都市の皆様からは、やはり街づくりをやる団体が多くて団体の連携がうまく行かないという事、行政と街との連携が非常に難しくご苦労なさっているという意見がありました。

そんな事で第二分科会は、皆様を関内から関外までご案内できたというのが非常に大きなポイントだったと思います。



全体会議Ⅱの司会

高橋氏（横浜の観光を考える会）

分科会3

ハイカラ文化と市民の活動

報告者

山手まちづくり推進会議

石川 喜三郎 氏



分科会三はハイカラ文化と市民の活動というテーマです。

午前はシティガイド協会のご案内で中華街から山手のアメリカ山に登り、横浜イギリス館を見学。そこで活動家の江刺昭子先生よりミッションスクールの紹介やそこで教えを受けた卒業生たちの活躍・活動の話、慈善事業・教育活動などについて約一時間の講演をいただきました。また横浜の市民活動の担い手の多くは女性であったということを強調されていました。講義の後、山手二三四番館、ベーリックホールを見学。さらにフェリス女学院の資料室、元町本通りの街並みを見学しました。

午後の部は2時30分から4時30分まで、元町のSS会の事務局を会場に山手総合計画研究所長の菅先生の司会進行で進められました。四つの団体が発表し、まず一点目は横浜市緑の協会からの発表で山手の洋館の利活用、七つの西洋館についてご紹介いただきました。さらには多くのイベントについて、地域との連携や今後の課題と展開というテーマでの報告を受けました。報告を受けてなぜ横浜では無料なのか、スタッフの待遇、土足でなぜ入れないのか、賑わいを増やす方法はイベントの他にあるのかということなど意見交換をしました。

二点目は山手地区のまちづくりについて山手街づくり推進会議の方から報告です。山手街づくり推進会議の組織までのお話、その後の取組みの状況、地区計画の提案、街づくり協定の締結、運用状況、山手街づくりプラン2007、運用の中で出てきた課題への対応、それから現在取り組んでいる課題、山手本通りの歩道の再生について報告がありました。その報告を受けて認定にあっていない場合について、街づくり協定の位置づけなどについて補足説明と質問がありました。これを聞いた後で私は山手街づくりプランの存在の大きさを住民が認識すべきだということ、そしていかに住宅地区での運動の展開にとってPR活動や啓発活動が重要だと感じました。

三点目は元町地区の街づくりの歴史ということで元町自治運営会より報告を受けました。元町の生い立ち、明治時代の商業地としての発展、震災後の復興と構成団体についてご紹介いただきました。さらには地域街づくり協定に基づいた元町公式ルールブックのご紹介、安全・安心の街づくり、公共配送システムの導入、授乳オムツ替え車両について、ショッピングストリートのシンボルと街の色というテーマでの図による紹介、犬にやさしいペットバーの設置などのご報告をいただき、各都市で情報交換、それから質問をお受けしました。現在元町では地元限定商品を置いてもらおうという事、元町独自のものを追求していきたいということを言われていました。また自転車の駐輪禁止、ビラ配りの禁止など行政がサポートしてくれたという例、商店街での落書き消し活動をご

紹介受けました。

地元の方からは成果をあげるには合意形成が必要だということ、そして時間がかかるということ、住民の主体性、行政のサポートと専門家の参画が重要という発言があり、最後に横浜市の都市デザイン室長からは住民のバックアップが無いと行政は動けないというコメントをいただきました。

【大会総括】

大会総括

関内を愛する会
宮川 眞壽美 氏



私は皆さんと3日間楽しくご一緒できたことを、今ものすごく幸せに感じております。私は各分科会全部に行きたかったと思っております。この分科会の成果は、まとめたものではなくて、皆様からの生の声を克明に記したものをお渡しできたらなと感じております。

私共は、今年は150年ということで、先人が残してくれた歴史文化資産を今大変誇りに思っ、全国に発信しております。この開港5都市景観まちづくり会議をきっかけにして、200年先300年先に誇りのある街というものを残していかななくてはならない、そういう使命を今感じておりました。これはやはり自分を愛する、自分の住んでいる街を愛する、そして誇りをもって進んでいく日々の努力だと思ひます。

この会議は皆様の思いがつのったということで来年も続けるということになりました。すごくうれしく思っております。また来年皆様とお目にかかりたいと思っております。ありがとうございました。



【代表者会議報告】

代表者会議報告

横浜市都市整備局 上席調査役
国吉 直行 氏



代表者会議は、最初に神戸市さんからの熱いメッセージが届けられましたので、来年は神戸でやることを代表者皆で了承する形でまとめました。来年の神戸大会でも、交流という側面と街づくりの紹介という側面、その両面を大事にして欲しい、という意見でまとめられました。

会議では、各都市代表者による意見交換をすることができませんでしたので、ここで各都市の代表の方にそれぞれのまとめ・感想を述べていただきます。

代表者会議報告

神戸市代表
神戸市景観形成市民団体連絡協議会
曹 英生 氏



私の感想といたしましては、横浜は港をうまく活用して、市民がそれをもとに活用をさらにパワーアップをしている気がしました。それは神戸も見習うところだと、切に思いました。

もう一つ強い印象を受けたのは、女性がとてもすばらしいということです。これは第一回目のこの時間に同じことを申しましたが、10数年経ってやはり輝いているなど。まして新しい市長が林市長ということで、ちょっとお話させていただきましたが、目力が大変ある方で、今後横浜がさらに発展していくことと切に感じている次第でございます。

時間があまり無いということでこのへんでさせていただいて、また来年よろしくお願いします。謝謝

代表者会議報告

函館市代表

函館の歴史的風土を守る会

落合 治彦 氏



この3日間横浜がすごいと思ったのが、今のデザイン室の皆さんが決して正面に出ず、裏方に徹している。このことがすごく、裏方にいながら目立ちました。

それともう一つ、実行委員の皆さん方それぞれ部署を持って配置されていますけれども、非常に熱心に一生懸命にしてくださいました。一番感銘したのは、雨の中でシティガイドの皆様、一生懸命懇切丁寧な説明で、立っているのが本当につらかった部分もありました。こうした横浜のノウハウを私は函館に持って帰ります。なんとかこれをまねしていきたいと思っていますので今後ともよろしくお願いします。

代表者会議報告

長崎市代表

三ツ山犬継地区景観まちづくり協議会

岡村 則満 氏



私は第二分科会のほうに参加をさせていただきましたが、池田会長のお話にもありましたが、ベイブリッジでのオープンバスでの体験は本当にずっと心に残っていると思います。大変な強風と雨でありました。

私は前回も横浜でお世話になりましたが、そのときから感じておりましたのは、横浜の市民団体の方はまとまって力強い活動をされているなと感じましたし、分科会の中でも討議はされていましたが、行政と市民との仲立ちをする団体の皆さんがうまく協調をされて街づくりがうまくいっていると感じています。

前回から今回までの間に、美しい横浜となっているのも、皆様の結束のもとそうになっているのではと思います。3日間の体験を長崎に持ち帰りまして、こういった形での街づくりが私達の市でも今後できたらいいなと、是非参考にさせていただきたいと思います。

代表者会議報告

新潟市代表

ユニバーサルカラープランナー協会

環境色彩研究会

高松 智子 氏



私の感想を述べさせていただきますと、横浜は先ほども宮川様からのお話にもございましたように、非常に歴史文化資産というもの、財産がたくさんあるところでございますけれども、私が一番感じましたのは、人という財産でした。人を活かした街づくりということが、非常に前回よりも増して進められているというところに感動を覚えましたし、私どもも学ばなければいけないなと強く感じております。

1 日目の海から見ました景観ですが、ほんとに貴重な体験で、2 時間弱拝見させていただきましたが、まったく飽きることなく「すごいな」で尽きてしまうんですけども、色彩調節のすばらしさに感銘いたしました。特にコンテナやクレーンがたくさん出ておりますけども、コンテナの色の美しさ、まったく邪魔をしない、彩度の低い色で、あの妙が本当にただただ「すばらしい」の連発でございました。分科会のほうですが、ここでの各取り組みに対しての発表を考えまして、午前中は参加できませんでしたが、発表をお伺いしまして、そのなかでは人を活かしているというところが、本当にすばらしいなど、一人一人の活動と連携した人の輪というものを私はこのたびの横浜大会で一番印象深かったということを申し上げたいと思います。新潟は過去最大の 21 名という人数で参りましたが、その 21 人の見聞と今回の大会で学びましたことを持ち帰りまして、皆様で考えまして、課題も沢山頂戴した大会でございました。本当にありがとうございました。



9 月 12 日に行われた代表者会議の様子

(BankART Studio NYK カフェリブ)

【大会宣言】

大会宣言案発表

山手まちづくり推進会議

天川 勝三郎 氏



[大会宣言案発表]

1859 年の開港から 150 年目を迎えた記念すべき年に、われわれ開港 5 都市の市民がここ横浜に集い、開港 5 都市景観まちづくり会議 2009 横浜大会を開催した。

「150 年の贈りもの～新たな旅立ちへ」をメインテーマに 3 日間にわたり、交流を深め、まちづくりを語り合い、先人たちが残していった 150 年の贈りものに思いを馳せ、新たな旅立ちを誓った。

長引く経済不況、中心市街地の活力の低下、ライフスタイルの多様化、環境問題など、都市の抱える課題は数多いが、われわれ開港 5 都市には、150 年にわたり引き継がれてきた歴史・文化など、かけがえのない資産がある。これらの資産を大切にし、今の時代に合った新しいアイデアを加えて、街の魅力をさらに大きく育てていこう。

そして、われわれ市民が街をもっと楽しく、生き生きと活用していくことで、開港 5 都市らしい活気をもった景観を生み出していきたい。

開港 5 都市景観まちづくり会議は、今大会で 15 回を重ね、この横浜で 3 巡目を終える。この会議を通して、互いの友情を深め、見聞を広め、刺激し合うことが、それぞれの活動を発展させ、多くの団体が協働してまちづくりに取り組む土壌をつくっていく。このような意義を再確認し、開港 5 都市景観まちづくり会議を続けていこう。

本大会に参集した市民が、体験し、感じたことを糧として、街の個性を伸ばし、生き生きと魅力あふれる景観づくりに努めることを確認し、ここに宣言する。

2009 年 9 月 13 日 開港 5 都市景観まちづくり会議 2009 横浜大会

(高橋 (司会))

天川様、力強い宣言ありがとうございました。

皆様の盛大な拍手によりまして大会宣言は承認されたものとさせていただきます。どうもありがとうございます。

【開催都市引継ぎ】

[大会旗引継ぎ]

横浜市から神戸市へ
バトンタッチ



次回開催市挨拶

神戸市 旧居留地連絡協議会

野澤 太一郎 氏



ご承知のように、平成5年わが街神戸でスタートした5都市会議ですが、この横浜大会で3巡目が終わりました。一昨日からの色々な催し、横浜の皆様方の大変な思いで、盛況に終わりましたことを厚く御礼申し上げます。

神戸に居留地研究会という外国人の研究をする勉強会がありまして、神戸で第一回の全国大会を催しました。函館、横浜、長崎の方々にご参加いただきました。第一回だけでは寂しいので、今年は10月に函館でお引き受けいただくことになっております。なんと、神戸というのは言いだしっぺだなということをつくづく思っております。

そんなことでこの大会も4巡目になりまして、すでに会場も設定しまして、あとは分科会など細かいことはありますが、盛大な会にして皆様方をお待ちしております。皆様方にご満足いただけるよう開港5都市会議の4巡目をお受けいたしますので賑々しくいらしてください。



【閉会】

開催市謝辞

開港5都市景観まちづくり会議
横浜大会実行委員会 会長
六川 勝仁 氏



本当に顔見知りの方が増えてまいりました。人と人とのコミュニケーションが本当に大事なだと実感いたしております。横浜大会は開港5都市の皆様、実行委員会の皆様、総勢220名以上の皆様にご参加いただきました。昨日はあいにくの雨ということでしたけれども、この短い3日間の間に、曇り晴れ雨、体験していただけたということも何か一つの思い出になるのではないかと思います。

短い時間でしたが、皆様方と有意義な時間が共有できたと思っていますし、また是非この横浜での体験、経験を各都市に持ち帰っていただいて、各都市なりのアレンジを加えていただけて活用していただければと思います。横浜も色々なものを活用していきたいなと思っています。

次回の開港5都市景観まちづくり会議は神戸市です。昨日、曹さんが張り切っておられました。10月の29、30、31日の3日間ということで、日にちも決定してございます。私も是非参加させていただきたいと思っています。このあともまだまだ横浜をお楽しみいただきたいなと思っています。

この会を盛り上げていただきました開港4都市の皆様、受け入れの準備で努力していただきました横浜側の各団体の皆さん、それから何よりも横浜市の特にデザイン室の皆さん裏方で本当に頑張ってくださいました。本当にありがとうございました。次回神戸でお会いするのを楽しみにいたしまして、閉会の挨拶にさせていただきたいと思っています。ありがとうございました。

参加団体一覧

函館市	函館の歴史的風土を守る会 函館市伝統的建造物群保存会 函館観光ボランティア 一會の会 函館市役所
新潟市	サンクプロム石山商店街協同組合 NPO法人新潟水辺の会 にいがた花絵プロジェクト実行委員会 市民大学 新潟学の会 ユニバーサルカラープランナー協会環境色彩研究会 協同組合新潟あきんど塾 新潟市役所
神戸市	北野・山本地区をまもり、そだてる会 旧居留地連絡協議会 美しい街岡本協議会 神戸南京町景観形成協議会 新長田駅北地区東部いえなみ委員会 神戸元町商店街まちなみ委員会 もとまちハーバー懇談会 栄町通まちづくり委員会 (株)地域問題研究所 神戸市役所
長崎市	平和公園地域まちづくり協議会 三ツ山犬継地区景観まちづくり協議会 大浦青年会 十善寺地区まちづくり協議会 長崎市役所
横浜市	伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合 NPO法人横浜シティガイド協会 関内を愛する会 協同組合元町SS会 社団法人神奈川地域活性化推進協会 日本大通活性化委員会 野毛地区街づくり会 馬車道商店街協同組合 BankART1929

元町クラフトマンシップ・ストリート

山下公園通り会

山手まちづくり推進会議

横浜中央地下街商店街

横浜中華街発展会協同組合

横浜の観光を考える会

吉田町名店街会

横浜市役所



2010 年、また神戸でお会いしましょう！



開港 5 都市景観まちづくり会議 2009 横浜大会 開催記録

平成 22（2010）年 2 月発行

開港 5 都市景観まちづくり会議横浜大会実行委員会

横浜市中区常盤町 4-42 馬車道壱番館 5 階

（馬車道商店街協同組合内）